處女の友

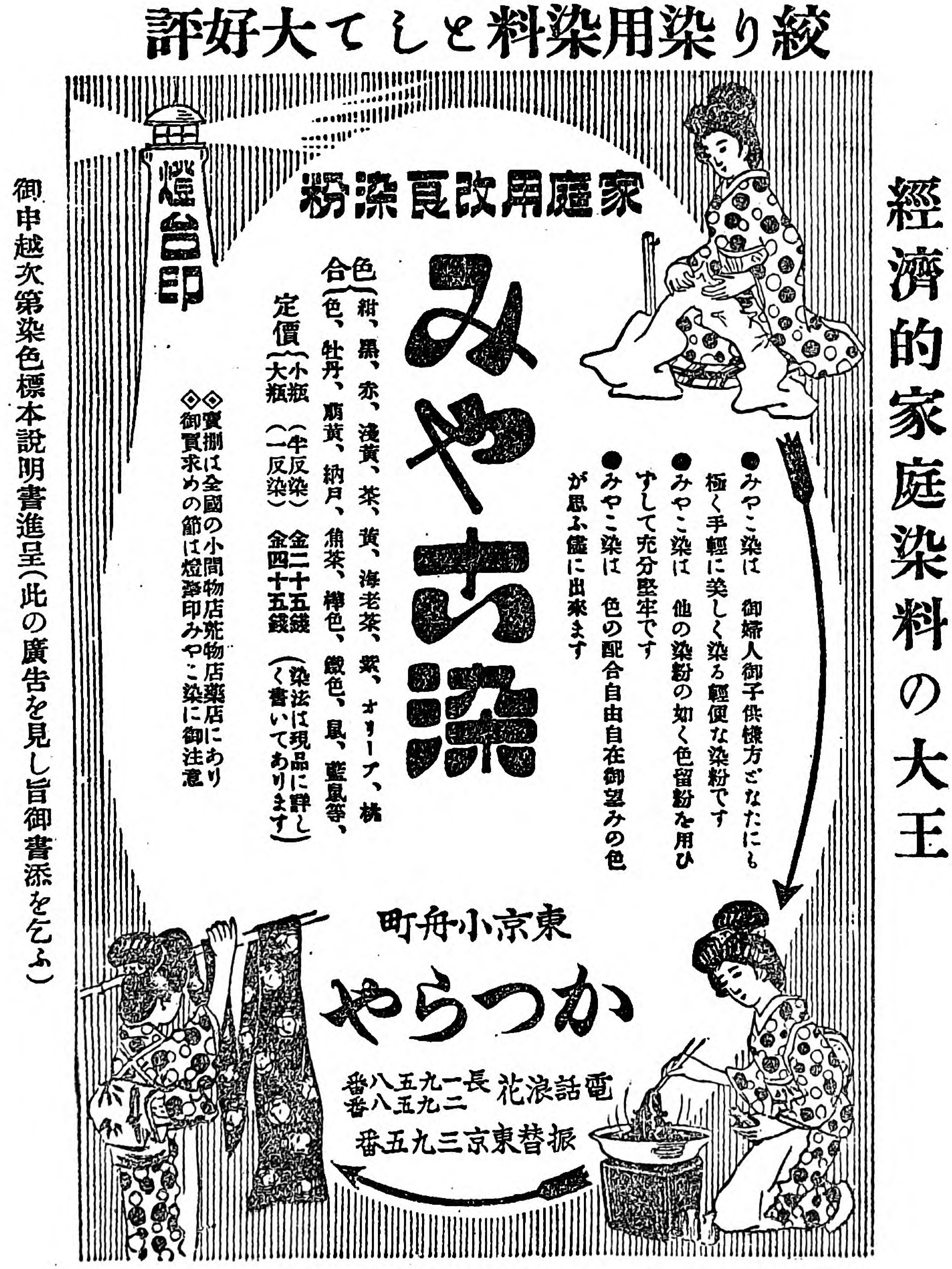
正八年十二月廿八日印刷納本　大正七年十二月二十日
正九年一月一日發行（毎月一回一日發行）

一月

3巻1号

第三巻　處女會中央部發行　第一號

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○御註文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ

青年圖書

大久保四洲著

青年訓話 軍神乃木

著者の麗筆に依りて將軍の面目書中に躍出す

四六版三五〇頁
定價四拾錢
=送料四錢=

青年團員手牒

青年團員必携の信用狀▲總クロース和紙堅牢無比▲青年團中央部編纂
定價拾錢=送料三部迄貳錢

帝國青年の歌

豪壯の歌勇快の曲=▲青年團中央部選▲島崎東京音樂學校敎授作曲
定價五錢=送料九部迄貳錢

青年團體操

器具不用且場所を要せず實行簡易陸軍戸山學校選青年團中央部編纂
定價五錢=送料四部迄貳錢

緬羊の飼ひ方

青年團中央部農業主任和田稔新著平明懇切總振假名付袖珍形頗美本
定價六拾五錢=送料四錢

青年團指導

青年團改善指導の標準書▲青年團中央部編纂▲菊判三百八十有餘頁
定價壹圓參拾錢=送料拾貳錢

趣味讀本 通俗文學

文部省普通學務局玉井廣平先生著青年の娯樂用課外讀本として好適
定價七拾五錢=送料六錢

地方青年の教養

內務省監察官守屋榮夫先生著▲青年團員敎養に關する新研究の發表
定價壹圓參拾錢=送料拾貳錢

東京市赤坂區溜池町三十一番地
帝國青年發行所
電話芝六二三三番
振替口座東京二一一六八番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

第三卷 第一號

處女の友

新年號目次

□表紙 夜なべ……田代紫光筆

□口繪 地方婦女會の活動

○記事

▽卷頭（私は今年から）……一

□皇后陛下の御坤德……二

□見猿聞き猿話し猿……四

□神社と御祭に就て心得べきこと 醫學博士 男爵 高木兼寛……九

□婦人の力 內務省囑託 生江孝之……三

□女工のために 三輪田高等女學校教頭 三輪田元道……一五

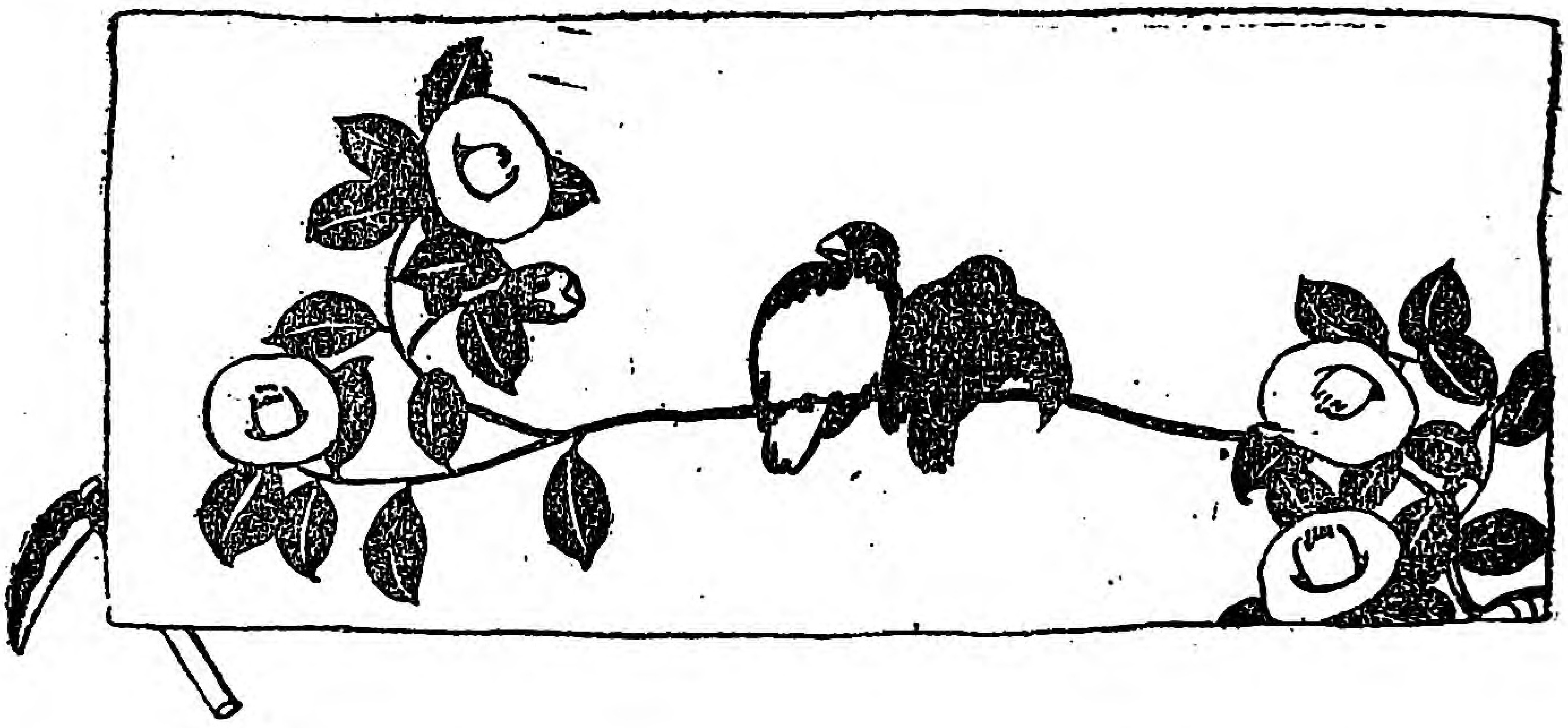
□暹羅の處女 東京女子大學學監 安井哲子……一七

□門松の教 中央部理事 山脇房子……二〇

□はんとうの女 上田紫水……三

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



□二十一世紀は婦人の世界……中央部理事　天野藤男…二五
□四國の田舍の娘さんへ……二八
□俳句いろは歌留多……岡山縣津山高等女學校長　堀尾金八郎…三三
□日用文字展覽會……三一
□日本の娘は幾人あるか……三七
□都にあこがれて(其の四)……白雲生…三九
□孝女白菊の歌(其の四)……三九
□梅花ものがたり……四六
□積善の餘慶遠州岡田家……四七
□處女遊戲運動に就て……柏村玉溪…四九
□鄙ぶり……梅のや主人…五一
□全國處女會婦人會主婦會一覽(其ノ四)……五三
□生活改善展覽會を見るの記……五七
□可愛さうなお房さん……六〇
□吾が家の爲に……二瓶一次…六二
□神尾大將と小間使……六四
□工場内に處女會生る……六八
□處女文藝……七〇
□編輯便り……七一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○御註文の節は處女の友の廣告に據る旨御書添へを乞ふ

新民

新年號

定價 一部三十錢 一年三圓六十錢

現代思想の傾向に對し市町村に於ける善導方法（全國町村長十數氏）

我が顧みたる日本……二荒伯爵

匈牙利を旅して……無名氏

改造期の英國……南條取締役

米國雜感……木村理事官

日本橋より相生橋まで……土木局書記官 佐上

英米の生活教育に學べ……藤井利譽

米國最近の社會事業……生江孝之

帝國の將來と勞働問題……大久保利武

再び補習教育振興の急務を論ず……田澤書記官

最も意義ある共同貯蓄……村田宇一郎

民力涵養第一年……添田地方局長

大戰の影響と國民の覺醒……今井兼寛

自治法令の研究……平井良成 近藤行太郎

報德千話……井口丑二

新講談 大黑屋……天野雄彦

時事評論

發行所 東京市赤坂區溜池町三十一 中央報德會 振替東京九七〇〇

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

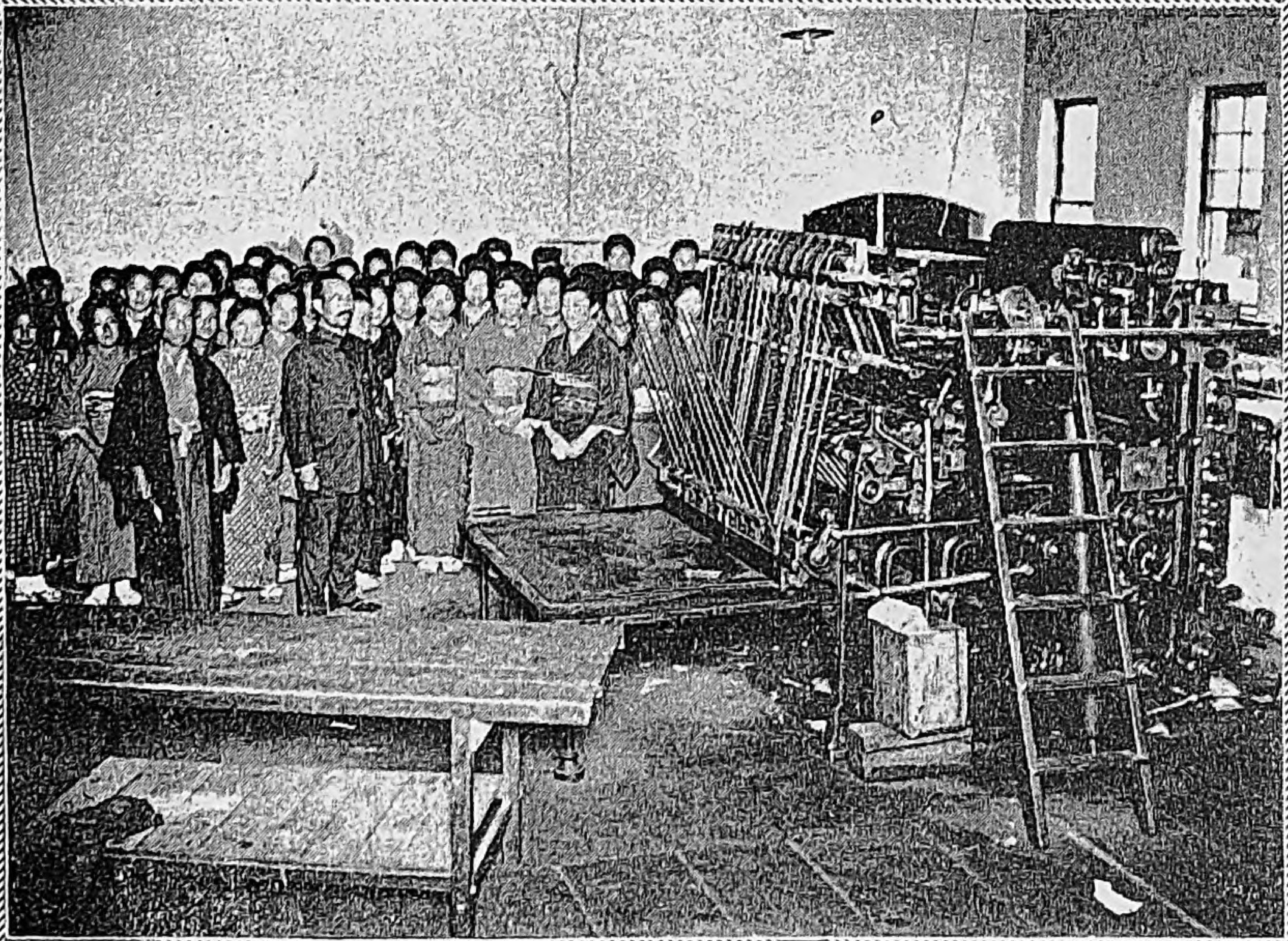
目ざめつゝある地方處女會

愛知縣知多郡横須賀町處女會

熊本縣宇土郡戸馳村戸馳處女會の見學旅行

目ざめつゝある地方婦女界

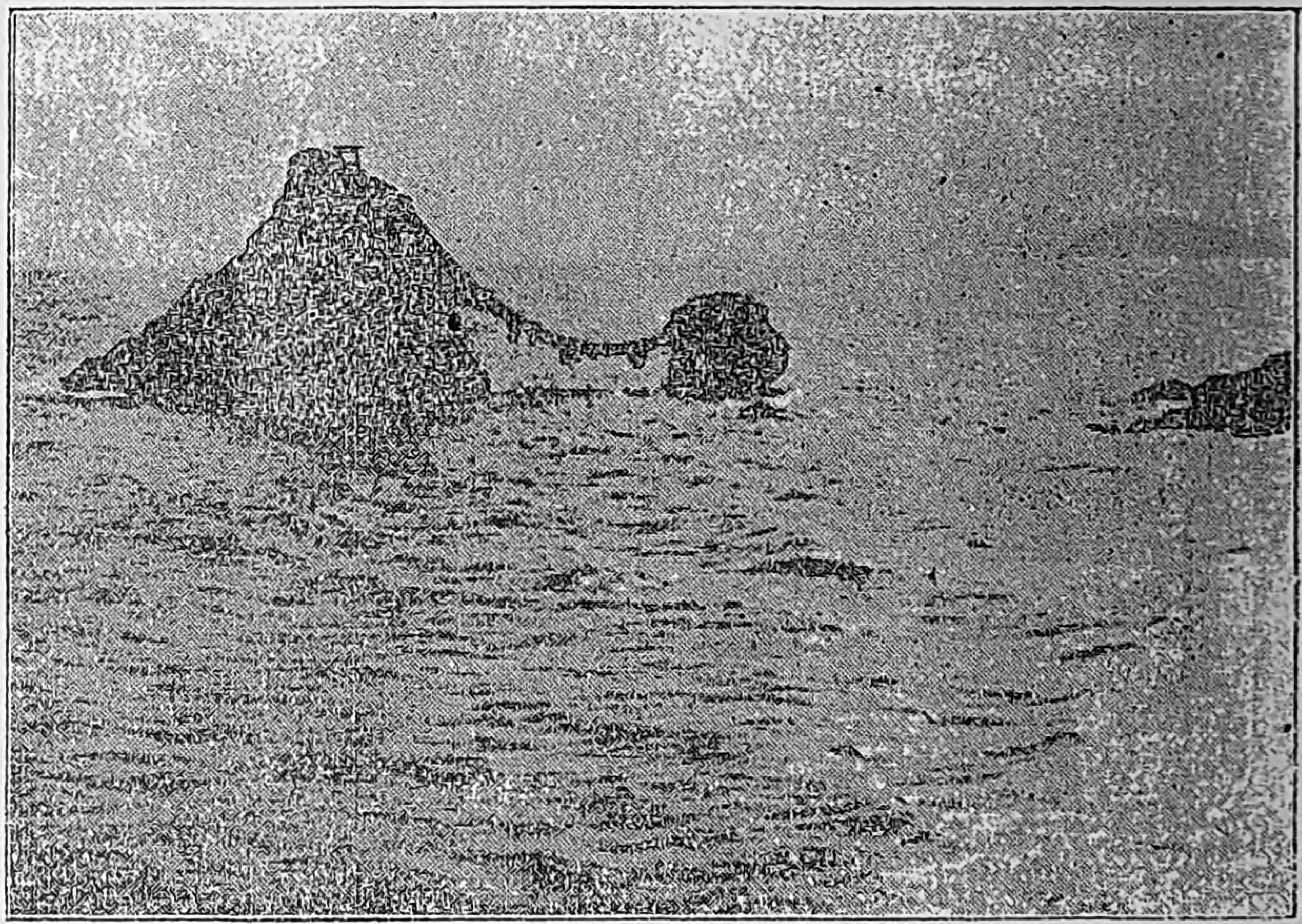
福島縣若松市第五區婦人會



鳥取縣西伯村高鹿村處女會見學旅行

前列向つて右より六人目木山會長、處女會中央部嘉悦理事
二列右より四人目内藤顧問、甲斐總理

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



私は今年から

◎強く

私は今年から一層身體を丈夫にし、心をしつかりともつて、迷つたり惡るいことに誘はれたりすることがないように、身も心も強い女になりませう。

◎優しく

私は今年から一層心を優しくもつて、お老人をいたはり、弟や妹を可愛がり、お父さんお母さんのお心にそむかぬ優しい女になりませう。

◎まじめに

私は今年から一層心掛をまじめにして、浮いた心を起さず、身分不相應な考を持たず、分に安んじてまじめな女になりませう。

◎働け

私は今年から一層元氣よく骨身を惜まずお家の爲にお村の爲にお國の爲に、一生けんめいに働きませう

皇后陛下工場に行啓し給ふ

——女工の作業を御覧ぜられ幼児に御菓子を賜る——

皇后陛下には、夙に教育、慈善、産業のことに御心を注がせ給ひ、博覧會、展覧會、學校などに屢〻行啓あらせられ、具さに各般の有樣を御心に留めさせ給ふこと、誠に畏き極みでございますが、去る十二月四日には、府下千住の陸軍製絨所に行啓遊ばされました。

製絨所は重もに、陸軍の服や毛布を製造致します政府に屬してゐる工場でございますが、此處には千百餘人の職工が居りまして、其の中の半分は女子でございます。職工の中には、夫のあり子供のあるものも多く、夫妻共稼ぎのものも少くありませんので、工場の内に托兒所を設け、其等の子供を深切に世話し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て居ます。只今百五十人程の子供が居りまして、その三十人は乳呑兒でございます。

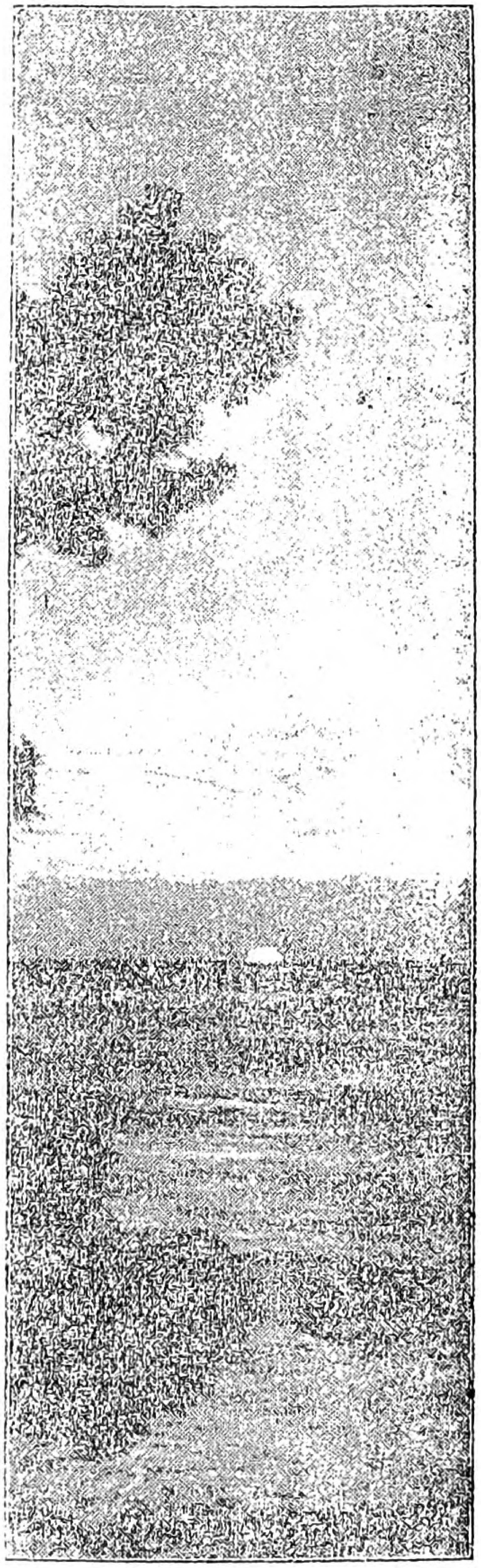
陛下には男女工の働いて居りまする工場の内を隈なく御覽ぜられ、御菓子料を賜はりましたさへ忝けなきに、この托兒所に玉歩を運ばせられ無邪氣に遊んで居りまする兒童や、ハンモツクに乘つて眠つて居りまする乳呑兒等に一々御目をかけさせられ、勿體なくも御手づから御菓子を下し賜つたのでございます兒童は一齊に君が代を唱ひましたが、　陛下には此等あどけない子供等の歌ふ歌に、御耳を傾けさせられましたと洩れ承ります。

御還啓の節は、兒童は打揃て御敬禮を仕りましたが、みな御下賜の菓子包を抱き、中にはお菓子を頰張つて居つた子供さへありましたさうでございます。

陛下が工場に行啓あらせられましたのは、今回が御始めてにゐらせられます國家の赤子たる勞働者に御心を注がせ給ふ御心、勿體ない極みでございます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

海岸の初日の出



見猿聞き猿話し猿

回見ざる、聞かざる、話さざるは古い

大正九年は猿の年、猿は人間に一番近い動物で、猿眞似なんと申しまして、淺智慧のたとへにもつかはれます。然し猿は親子の情の深い悧巧な毛物で、使いようによりますと、なか〱役にも立てば、旨い藝も致します。猿廻しも、猿芝居も皆樣よく御存知でせうが、なか〱器用なものではありませんか。

所がこの猿に、三猿といつて、見ざる、(猿)、聞かざる(猿)話さざる(猿)といふお猿の像がよく方々の辻なんぞに立てられてゐます。見ざるは、兩手で目をかくして物をみない樣子をしてゐますし、聞かざるは耳をさへて音も聲も聞かない眞似をし、話さざるは、口をふさいで、口をきかない振りをしてゐます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

新三猿主義

この三猿はとり樣で敎へ草になつてゐます。殊に口は禍の門とか、病は口より入り、禍は口より出づなんぞと諺にもあるように、昔から口の爲に身を誤つた人が幾人あるかわかりません。身を誤るといふような大きな過は別として、餘分のことを話したり、いひつけ口をしたり、內所のことをしやつべたりして、人に迷惑をかけたり、友達と仲たがひしたりした人はどの位あるかわかりません。女の方に殊*

日の出につる

あまの華

*に多いと言はれてゐます。『話さざる』も結構な敎へです。然しよく考へて見ますと、この三猿はもう時代後れ、大正の御代には通用しない敎へと考へられます。私は反對に『見猿、聞き猿、話し猿』としたいと思ひます。兩手をかざして足許はおろか、遠い遠方までもズッと見通すように、又兩耳を兩手で開いて近くはおろか、ズッと遠い物音まで聞くように、又兩手で喇叭をこしらへ口を十分に開き、遠方に聞えるように、大きな聲をして話すようにしたいと思ひます。こういふ三猿の像を日本國中方々の辻へ立てたいと思ひます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

■あゝあの時に一口

皆様、是からは、どうか、よく見、よく聞き、よく話す女の人になつて下さい。目の毒とかいつて、ツイ見ないでもよいものを見た爲に、友達の買つた帶が欲しくなつてお母さんにねだつたり、聞かでもよい人の内所ごとを聞いたりして、しくじつた方もありませうが、其は、見方聞き方の正しくない爲で、目の罪でも耳の過でもありません。大正の婦人は持つて生れたよい目、よい耳、よい口を働かせて、大に見聞をひろめ、思ふ所を發表しなければなりません。昔からよく見なかつた爲に、よく聞かなかつた爲に、よく話さなかつた爲に、世間の人殊に女がどれ丈損をし、身を誤つたことかわかりません。『あゝあの時にもう少しよく見屆けて置けばよかつた』『あの時にあのことを聞いて置けば』『あの時に、あゝ一言キッパリ言つて置けばこんな苦勞はしなかつたのに』といふような思ひは、皆様にもあることゝ思ひます。

■女は人形ではない

昔は、女は無口が尊ばれました、何か聞かれても、うつむいてだまつて、赤い顔してゐると、女らしいとか、しとやかだとかいつてほめられました。物を見る方もさうで道を歩るいても、足許ばかりみて、遠方は見ません、洋傘でわざとかくして通ります、其を女らしいとほめました。又耳もさうで、何の世の中の出來ごとを聞きたいと耳を聳てますと『そんなことはおよしなさい』といつてたしなめられました。その癖、見でもよい物はみたり聞かでもよいことをほじくつて聞いたり。話さでもよいことは話したりしたものです。つまり女は、男の附屬物で、男に養つて貰つてゐるもの、だから物の道理はよく知らずとも、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

世の中のこともわきまへずとも、只きれいにお化粧して、夫から貰つたお金でよく着物をこしらへ、夫のごきげんをとつてゐれば、其で十分、その外のことをすれば、却つて邪魔であるといふ樣に考へて居つたり、又實際さういふ風だつたのです。つまり女は夫の顔、夫の心、夫のごきげんを見、夫のいふこと、話すことが聞きとれ、夫に向つて自分のいふことがわかりさへすれば、世間の人や、世間のことは、どういはうとも、どうならうとも、深い心配もなかつたといつたやうな風でした。

『夫は唱へ婦は隨ふ』是は夫婦の別ある以上正しい自然の德であります。夫はすべての男子の中で一番信任し、忠實に仕へるべきもので、夫は又あらゆる女の中で、一番妻を愛し、守らねばなりません。

然し、是からの女は、人形ではいけません。只美しくなつてのみ、可愛がれようといふのは誤りです。男の方でも、女は美しいから好きだ、弱々しいから氣の毒だから保護してやるではいけません。互に敬し合ひ互に愛し合ひ、男は男の天分を、女は女の本分をつくし合つてこそ、眞の夫婦です。

▣心で見心で聞き心で話せ

現在のお婆さんは姑らく別として、前途のある皆樣は、もつと／＼悧巧なしつかりとした女に、人にならねばなりません。其には、先づ以て、目を働かせ、耳を働かせ、口を働かせ、家の中のことは勿論、廣く世間の出來事より、社會の移り變り、世界の變化まで十分に目で見とどけ、耳で聞き分けその上にわからぬことは口を以て聞き正し、其を心の中で考へ合點のゆくやうにしなければなりません。『聞こうと思つたがはづかしいからやめた』『話さうと思つたが間が惡いからよした』でなく、是は知らねばならんと心で考へたら、ドン／＼お聞きなさい、話しなさい。耳は電話の受話器、口は發話器、目は見張り番この三つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を絶えず働かせる人が勝ちです。

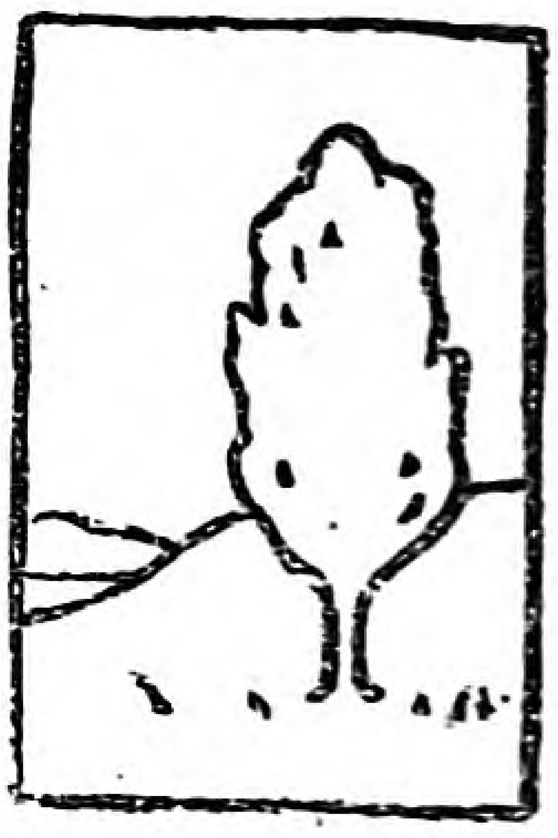
然し尚皆様に申上げたいのは、心の中にも、耳があり、口があり、目があることです。否顔についてゐる目と耳と口は、心の目と耳と口との支店で、本家は心の奥底にどつしりと控へて居ります。故に、物を見聞きするならば、心の目、心の耳まで聞えるように、又ものを話すならば、心の底の聲を出すようにせねばいけません。昔から心目を喜ばせるとか心耳を樂しませるとかいふ言葉があるではありませんか。右の耳から聞いて左の耳に通りぬけるようではいけない、心に見、心に聞き、心に考へて、さうして心の命令で話さねばいけません。

人の話しを聞きながらも、その人の心の中をも見分けるように、人の顏を見ながらその心の底まで見分けるようにならねばいけません。といつて只ヂロ〳〵その人をみつめてゐる譯ではありません、目は落ちつけてヂッとしてゐて靜かにその人の心持を見るのです。今までに若い女が、男の心を知らずに、一寸した甘い言葉の爲に、表面の深切さうな言葉の爲に、どれだけ身を誤つて泣いてゐることでせう。

圖處女會の大きな目と耳と口

大正九年の猿年の新三猿から思ひついて、皆様は大に見、大に聞き、大に話す強い優しいまじめな働く女となり、人となつて下さい。幸に處女會婦人會が出來てゐます、一人々々に話したり聞いたりする外に、團體の力を以て、大きな聲をして話し、一所になつて聞き、大勢集つて見なければいけません。團體の力を以て聞き、團體の力を以て見、團體の力を以て考へ、團體の力を以て話す、其が輿論といふものです只評判とか、噂さとかはもうねうちがない、此が處女會の輿論である、婦人會の叫びであるといふに至つて始めて頼もしいのです。大に地方婦人の爲に輿論の中心となつて下さい。一萬二千の處女會婦人會が一所になつて話すその聲は、日本國中を動かすに十分と思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



神社とお祭りに心得べき事

男爵 高木兼寛

我國民の中でまだ神社のことをよく心得えて居らぬ人が多いのは、歎はしいことで、國民道德が衰へ、國民の思想の薄らぐのは、此と關係が少くないのである。故に左に神社についての極く大體の事柄をお話ししようと思ふ。

社殿及境内

國民が道を修め、德を磨くあらたかの場所で、境内の建物や、樹木は皆神樣の御思召に叶ふように設けられ、植ゑられてある。町村の人がよく神社を尊び、神樣の思召に叶ふように心掛ければ、町村はよく治まり人々は富み榮え、五穀はよくみのり、家内は繁昌するのである。

玉串

幣を吊せる眞榊を神籬といひ、之を植ゑる臺を磐境といふ、玉串は神靈を尊崇する誠意を示すものであるから、恭しく之を取り、斜に心部にあてつゝ大靈前に進み、神前に捧けるのである。

幣

幣は分神靈といふ義である、神事に供する幣の材料は多くは白紙で、之を裁つて御神體を表はし示すのである。

神殿其他に於て幣三本を備へるのは、造化の三神を表はすもので、眞中を天御中主神、左を高皇彥靈神、石を神皇彥靈神とする。古から酒を盃に注ぐとき、三段にすることのあるのは、造化の此の根本義を表はしたものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天御中主神は宇宙の御本體で、人類の大本である。

注連縄は、其の域内を猥すもの丶ないやうに張つてあるものである。

祭典

老人も若きも男も女も皆神の前に集つて、同じことを思ひ、同じ行ひを爲し、大勢の人が一體になつて互に親しみ合ふ儀式で、一家から一村一町さては國中の平和を祈る一番あらたかの行事である。どんな片田舎にいつても、お宮が祭られ、お祭があるのはこのわけである。

神前の燈火

燈は、萬物を育てるに必要な熱である。故に神の祭にも、御燈明をあげるのである。常夜燈の燈火など、誠にかう〳〵しいものである。

御酒

御酒は靈氣で、靈氣は幹と考へると、わかり易い、即ち御酒を少しづ丶飲んで、人々が睦み合ひ、幹の如く一所になつて團結力を強くし、和樂の大本を築き上げるのである。然しながら御酒も過せば、却つて相互の交りを絶ち、家郷の平和を隔るに至るのであるから心せねばならぬ。

洗米、鹽、淨水

米、鹽、水は、吾々の生活上一日もなくてはならぬものであるから捧げるのである。米といひ、水といひ、鹽といひ、皆清淨で、とうといものである。

紅白の鏡餅

是は日月にたとへたもので、太陽と月の光は圓滿にして萬物を生育するありがたいものであるから、之になぞらへて鏡餅をつくり、之を食べて心と身とをあらたかにするのである。

山の幸海の幸

野菜、鳥獸、美肉、海の草など、海と陸と山とから出來るものの中其の代表的のものを捧げて、海陸の産物のいとゆたかなることを神にお告げすると共に、此等を大切にする意を表はすのである。

神樂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

祖先の歴史を實際に演じて、日本民族の自覺心を喚び起し、大勢の人々が心を一にする爲に行ふものなり。

鈴及鰐口

神社にある鈴及鰐は、拍手と同じく、己が心身を統一し緊張し、清く正しく澄ましめる爲に、鳴らすもので氣を附けと同じ意味である。

賽錢箱

神社は國民全體の恩人であるから永く之をお守りしなければならぬ、されば參拜者が神樣の功德に應へ、神社をお守りする爲に、お賽錢を奉納するのは神社に對する當然の義務で、幼少の時から之を敎へれば、公共の精神、博愛喜捨の美風を養ふことが出來る。

獅子

牡は神社の左側に、口を開いて唱へる形を表し、牝は右側に口を閉ぢて從順の容を示してゐる。獅子は獸の大王、之が牡と牝と和合すれば、どんな毛物が來ても敵ふものはない。之と同じように、人も、男女互に其の分を守り、相和して母家を守り村を保護すれば、その家その町村は必らず富み榮えて、太平となるのである。

奉納物

神社には、書、畫、彫刻其の他の陳列品があるが、是等は其の土地の歷史を表すと共に、美術工藝の特色を示し、又之を奉納する人々の誠心を現して、參拜者の智識と神を敬ふ心とを盛んならしめるのである。

太鼓橋

人道は正道である。橋を大鼓形に造つて正道を踏むの困難を示し、橋の下に池を設けて正道を踏み誤るものは、此池に落つるぞといふ戒めを垂てゐるのである。

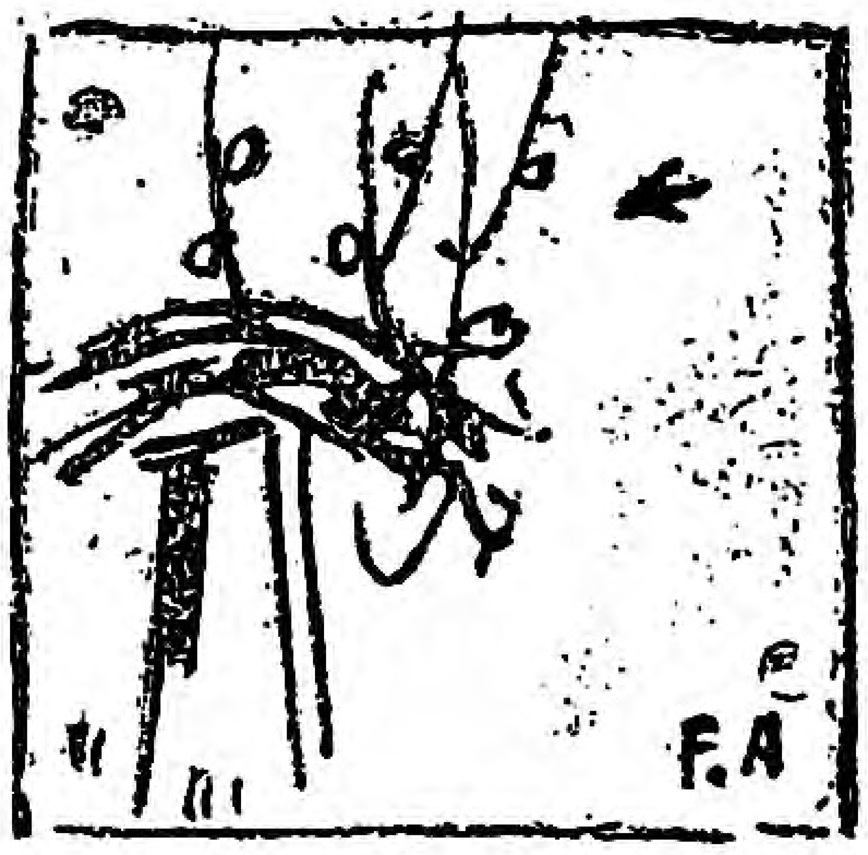
御手洗

祓禊の略式で、參拜者の手を淨めるものである。

鳥居

太古は、神社に住む鳥の休憩する所であつたらうと思はれる。其の構造は、簡單であるが、之を潛る時は何となく神々しさに打たれます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



婦人の力

内務省囑託　生江孝之

□**婦人の發見**　萬國キリスト婦人矯風會々長ビルラード女史は「十九世紀に於ける發明發見中、その最も顯著なるものは婦人を發見したことである」と叫ばれた如く、事實十九世紀程世界が文明的發見をしたことは今迄に無いが、その中でも婦人の存在を認めてきたといふことは確に著しい大發見であらうと思ふ。

野蠻若しくは半開の時代に於ては、婦人といふものに重きをおかず、唯單に家庭に於ける一存在物としてのみこれを視てゐたが、世が文明に進むにつれ、婦人の自覺と同時に、社會も亦婦人の力を尊重せねばならぬといふことに氣がついてきた。こゝから謂ふと、文明とは、一面婦人の價値を認める事だとも言ひ得るのである。

□**米國に於ける婦人の活動**　今回自分は久濶振りの渡米をして、殊に彼の國の婦人が社會の各方面に著しい勢力を振ふてゐるとに驚かされて來た。

これを具體的に表はしてみれば、俸給若しくは賃銀によつて生活する米國婦人の數は實に八〇〇萬人であつて、働き得るといふ婦人の約三分の一を占めてゐるのである。併も、これら多くの米國婦人は、重に社會改善の方面に活動を續けてゐる。たとへば、米國の小學校敎員は總數六十二萬人であるが、中五十萬人が婦人であり、慈善事業乃至社會事業に從事してゐる者の割合は、男に較べて女は六七割に當つてゐる。この數

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

字を見ても、いかに彼の國の婦人が社會といふものの上に活躍してゐるかが判ることと思ふ。

□クリスト教婦人矯風會

婦人の團體として、最も有力なるものは、クリスト教婦人矯風會と、も一つ女子青年會とである。クリスト教婦人矯風會の起源は可なりに古いものであるが、米全國のそれをつくつたのは今から四十五年程前である。

事業としては、教育、傳道、禁酒運動等が重なるもので、都も鄙も其の支部の無いところは殆ど無いといつてよろしい。而して其の禁酒運動に就いてみるに、米國は日本に於ける府縣の如く、全國が四十八の州に分れて、各州其の法律が違つてゐるが、その各州に運動を進めて、小學校教科書の何れにも禁酒に就いての一章を挿入せしめる事に成功した。その結果一六〇〇萬の兒童は幼少より、飲酒の害を腦裡に刻みつけるやうになり、從つて教育上の一大革新を見るに至つた。これは都會婦人の力ばかりではなく、實に地方婦人の活動も預つて力あつたものである。斯る狀態が押し進んで、米國は來るべき一月十六日を期し、法律を以て全國に禁酒令を敷かんと息圈でゐる有樣になつてきた。

□女子青年會

も一つの女子青年會といふのも全國に亙つた女子の團體であつて、今から矢張り四十五年程前にニューヨークに「クリスト教處女會」といふものが出來たのが其の起源である。事業としては、教育、風紀改善、女工の保護、移民の保護等が其の重なるものであつて、これも各地に支部を置き、會員は皆一致の行動をとつてゐるものである。

一個人の力といふものはそんなに大きなものではないが、これが團體となると實に偉大なる力を持つものである。女の力は個人としては弱いが、併し米國のこの種婦人運動に視るも、團體の力は如何に絶大であるかをよく了得することが出來るのである。

□デンマークの農村婦人

婦人勢力の聯想として、私はデンマークの農村婦人の覺醒を數へてみたいと思ふ。デンマークは御承知の通りヨーロッパの北に位する一小國、面積は我が九州位、人口も三百萬程

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

で五〇年程前は國内全く疲弊したものであつたが、今日に於ては富國の度一人當世界列强の二三位にあるものである。この發展は何にから來たか、それが注目に價すべき問題なのである。

デンマーク發展のこの原動力は一に農業の開發によるものであり、その農業開發の基礎は、實に農村婦人の向上に因るものである。

デンマークには乙種農學校に似たものがあつて、國民の總ては、男女共十五歳より二十五歳以下の年齢に於て、必ず一度はこの校門をくゞらねばならなくなつてゐる。其の組織が、夏季は男子、冬季は女子といふ風に區分され、男女何れにも相平均せる學藝智識を授けてゐるのである。この農村婦人の教育、これがデンマーク發展の根源であつた。

□社會の進歩は男女の共力に俟つ　何程男子のみが優秀になつても、其の同伴者たるべき女子がそのまゝであつては、一向に役立たないものである。一方に男子が進めば一方に女子が伴ふといふのでなければ、社會も國家も決して進展するものではない。

我國などは二千五百年來の農業國であり乍ら、現在もやはり昔ながらの鋤鍬農業の狀態で、一向に發展進歩の跡も見えないといふのは、他に幾つもの理由もあらうけれど、女子の智識が男子のそれと相平行を保たないといふことがその最も主なる原因であらうと思ふ。

デンマークが國力充實の實現に、まづ女子の教育に眼をつけたことは眞に當を得たものであつて、我國なども他山の石として顧る必要があることと思ふ。

□農村處女に望む　我國に於ける婦人の團隊では、目下のところ、婦人會と處女會とがその重なるものである。從つて私はこれらの婦人團體に向つて望みを向けなければならない。勿論、外國と日本とは國風も違ひ、又都會と地方とでは其の趣きも違ふものであるから、一概に什う彼うといふことは出來ないが、處女會といふやうなものは、よろしくその團體の勢力を利用して、もつと／＼智識を廣め、學術を磨き、社會的にも、國家的にも働いて貰いたいと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

女工のために

三輪田高等女學校敎頭　三輪田元道

一　機械になつてはならぬ

唯寢て起きて、食つて働いてお金を取るといふだけならば、人間も一個の機械に同じい。飯を食ふ機械、ものを言ふ機械、彼の工場に運轉する各種の機械と何等の差別がない。

ところで今日の——尠くも今日までの工場生活者は、全く人間が機械化されたものであつた。これぢやアいけない。眞個に工場を役立せるには、機械を人間化しなくてはいけない。

人は物質ばかりでは生きて行かれぬ。物質、例へば衣服、食物、住居等を求むるのも詰りは精神上の滿足を得たいからである。人はこの精神生活を忘れると所謂一種の機械になる。萬物の靈長たる人間が彼の機械と同じくなつてはもう萬事休矣である。

二　八時間制を如何考へるか

今盛んに勞働會議で八時間制とか九時間制とかを騷いでゐるが、これを什う考へなければならないか、今迄十時間も十二時間も働いてゐたのが、急に八時間に短縮された、ところで仕事がラクになつた、餘つた時間は骨休めである、とさう考へていゝか惡いか。こゝが重大のところである。

今迄の工場は、十二時間宛働いて、十だけの仕事を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

して來たものとすれば、これからは八時間内に同じく十の仕事を仕上げて了ふといふのが八時間制の眼目である。そのかはり一心不亂に働く、ありだけの能力で働く、詰りは、短かい時間に同一の成績を上げるといふのが八時間制の意味のある所である。

小學校などに於てこれを兒童に試むるに、朝の一時間は午後四時間の成績に比べることが出來るといふ。してみると、精神を充實にして働く八時間は、疲れて働く十二時間の仕事を爲し上げるのに十分である。仕事の成績は、決して時間の長短によるものではない。

三　休み日は精神修養の日

勞働の時間は肉體が働いて精神が休すんで居る。だから休みの時間乃至休日、其他日曜祭日といふ場合には、その反對に、身體を休めて精神を働かせなければならない。即ち日曜祭日は吾等の理想日である。教會に行つて話を聞くなり、神社や寺院にお詣りをして精神を落ちつけるなり、家庭の人ならば、この日一日を決して怒らないとか、苦い顔をしないとか、夫婦喧嘩をせないとか、せめても其の日だけは清淨無垢なる心をもつて、兎に角一日を氣持ちよく過さなければならぬ。こゝに初めて休日の意義が備はるのである。然るに現在日本の休日は、却つて心の修養を離れた日になつてゐる。理想日どころか、これでは不道德日、不品行日である。

この順序に行けば、將來八時間制が實現された曉には、惡德感染の時間が增えて、それが爲に却つて身を損ひ精神を亡すといふことにならざるを得ない。

四　個人の幸福は國家の幸福

人には誰人にも二つの生活がある。一は個人的生活で、一は國家的生活である。そしてこの二つが一つに結ばらなければならない。即ち個人の光榮幸福が直ちに國家の光榮幸福に比例しなくてはならない。それには個人々々の自覺が必要である。一工場の片隅に働く女工一人の働きは、單に其の者一人の働きではなくて、それは實に國家そのものゝ働きである。この自覺を持てば毎日の勞働が樂しく、自己の生活が有り難くなる。兵士が砲を持つのも、女工が糸を績ぐのも、實に國家の仕事である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

異國情調

暹羅の處女

東京女子大學々監　安井哲子

□暹羅は熱い國、象の國

地圖を開く迄もなく御承知の通り暹羅は印度支那の中央にありまする獨立國でありまして、熱い外に象を以て名高うございます。面積は四萬方里、人口は現在にしまして八百二十萬もございますか、産物としましては米でございまして、一寸風變りに思はれますのは暹羅人が象や水牛を使役しましてチークと申しまする巨木などを運搬させますことで御座います。私は其處の「皇后女學校」に暫く居つたことが御座いますから暹羅國處女の風俗に就いてお話しを申しませう。

□日本ならば元服の式

申しますことは上流社會に於ける處女の風習で御座いまして、中流以下になりますと、あまり特種な風習は見られません。

上流の家庭になりますと、一つには祖國の舊習を重じますこと、一つには貴族であるといふ身分を表明しまする事のために、それはもう面白いことを致します。

暹羅の少女は、最初お頭をグルリと剃りまして、その眞中を長く伸し、それを日本の束髪のやうにグルリ〳〵に巻きます。そして、元結か何かのやうなもので生きた花環を作り、それをグルリと髪に巻き附けて髪

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

飾といたします。それが十二歳になりまするど、まあ吾が國ならば昔お武士の元服でせうね、その束髪様のお髪を切つて了ひます。切る場合にはそのお式がありますのですが、それが彼の國だけに佛敎に因みましたもので、その散髪の前後は、外出などは致しません。――まあ魔除けと謂つたやうなものですね。いよ〳〵其の當日になりまするど、鋏を入れる人を頼みまして、美しい衣裝に身を飾り、多く客を招き、ある一定の場所に座を決めて、その髪を切つて了います。

□祖先の忠君を偲ぶ爲に

散髪が終りますと、そこに清水がありまして、お客が代る〴〵處女のお頭にその水を掛けてやります。詰り清める意味でございませう。で、暹羅の少女は、恰度日本の髪を長くしておきます男子のやうで、ザンギリ頭になりますのですが、その梳工合によつてフックラとなり、少しも見苦い様なことはございません。これは吾國などから考へますと、隨分お可笑げな風習で御座いますが、これには尊い歴史的縁因がございますそれは、その昔、暹羅が外の國から攻撃を受けました切に、男子だけでは不足になりまして、憂國の婦人は皆一様に自分の髪を切り落し、男子の列に加はゝりまして、祖國の爲めに働いたさうで御座います。詰り、今日殘されたこの奇異な風習は、それら婦人が、祖先の忠君を偲ぶためのものだと申します。

□處女の服裝

暹羅の女は、腰から下の方を幅の廣い布で巻きます。それは實に巧なものでして、恰度我國の股引のやうに見えます。そして下に長い靴下を履き、上部には西洋婦人の着ます色物の上衣を着け、それを帯で留めます。面白いことには、その色が一週間めぐりに毎日違ふことで御座います。さう、たとへば月曜日には赤、火曜には黄といふ風に、一週間の色がみな違ひます。そして、この外に、妙齢の娘は、あの參謀肩章のやうな美しいものを肩から腋下に掛けまして其處を房緒で結ん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

でおきます。

中流以下になりますと、吾が國の袖無を着まして、靴下無しの素足でございます。上流はもう禮儀作法が嚴しう御座いまして、貴族は多く修養のために宮仕を致します。宮仕と申しますと、皇后陛下に事へますとで、宮中に生活致しまして、そこから學校へも通ふといふ工合でございます。

□夜の歡樂

前に申します通り熱いのでございますから、晝の間はとても遊べません。で、娛樂はどうしても夜になります。夜の娛樂などゝ申しますと一寸變にも聞えますが、決してそんなものではございません。第一暹羅の處女は外出にも多く馬車を用ひまして、單獨などでは出歩かないことになつて居ります。で、娛樂と申しますと、多くは芝居でございまして、それは上流のお孃さん方が皆御自分で行りなさいます。隨つて西洋ならば舞踏、日本ならば舞といふやうに、さういふ藝術方面の趣味が豐で御座います。で、その指などはもう極度に訓練されまして、指がまあ後に反て、手の甲に指先きがくつつきます。

また暹羅の少女達は大層外國語がお上手でございます。これは、吾國婦人のやうにあまり羞恥ないといふことが原因だらうと考へられます。例へば、英語を十單語だけ覺えたとしますと、すぐと日常の生活にそれを應用して行きます。無暗に羞恥んだり憶したりなどは致しません。それに暹羅は男よりも女の方が餘計働くといふ特種な風俗をもつて居ります。

□日常の食物

普通はお米を戴きますが、其の外に暹羅料理や西洋料理なども行はれて居ります。それにバナナや其他の果物を生のまゝで食べます。本來は御飯を手摑で食べるのですが、今では匙を用ゐることを覺えてまゐりました。一般に申しますと、食べ物に非常な辛味を加へます、野菜等も生の儘に食べるのが多うございます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

門松の教

處女會中央會理事
山脇高等女學校長　山脇房子

＊

お正月ですから、今回は芽出度いことに就てお話いたしませう。

お正月には、日本全國、津々浦々に至るまで、貴賤貧富の別なく、形式にこそ多少の相異はありませうが門松を立てぬ家はありませぬ。近頃一部の人は、若松をこんな事の爲めに澤山伐るのは、國の富を無益に減らすのだから廢した方が可いと主張して居られる向もありますが、長い間の習慣ですから、なか〳〵廢められさうにもありません。

なぜ門松を芽出度ものとして、年の始め門に立てるかと申しますと、松の色かへぬ操、竹の素直と堅い節梅の清い香と忍耐、これを、一年の計は元旦にあるといふ其の年に始に、間近に見て、深く心に泌み込ませ置くといふ意味だと聞いて居ります。獨り門松ばかりでなく、昔から松竹梅と稱へて、慶び事の模様物や延喜を祝ふ物などにも用ひ、人の名前にも、よく此文字を用ひますのは、皆其特長に傚へよとの心であります。

＊

松は、瘦せた土地でも、岩山の上にでも、一度根を下した以上は、風が吹かうと、雪が積らうと、泰然として堪へ、春夏秋冬とも常盤の色を變へませぬ。其の操の高さ、之を諸子に例へますと、或る人は都に、或る人は鄙に、又或る人は富家に、貧家に、或る人は身分高く又低く、その生れは千差萬別でせうが、人間としての價値は皆同じですから、之を少しも喞たず、如

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

何なる出來事に會つても、どんなに辛い苦しいと思ふ事があつても、少しも顏色を變へず、泰然として凌いでゆく事であります。貧家に生れたのを悲んで、徒らに富家の子を羨むのは、瘦地の松が田や畑の中に立つて居る松を羨むやうなもの、田舍に住むのがいやだといつて、當も無いのに都會に飛び出すのは、岩山の松が、埃の多い街の眞中へ移植される事を望むのと同じではないでせうか。自分の生れた土地で榮えて、其の土地の爲めになるやう努めるのが、一番貴い、一番立派な事だと、松が諸子に敎へて居ります。

＊

竹は、曲つたりくねつたりしないで、眞直に勢よく伸びて參ります。人で申せば正直の德を具へて居ります。然し正直であつても、ところ〴〵にしめくゝりがなければ、だらしがなくて役に立ちません。竹には節といふものがあつて、そのしめくゝりがよく出來て居ります。ですから、弱いやうに見えても強く、節の堅い處は鋸でも容易に切れません。竹は又、中空にして內部に一點の蟠りもありませぬ。之を人で申せば、心中少しの邪念も猜疑心もなく、所謂腹黑いやうな所行をせず、淡泊で厭味がないのと同じでせう。兎角人は他人の言行を曲解して、之を疑つたり、嫉んだり、怨んだりし、甚しきは之を中傷しやうとして、根もない事をいひふらしたりし、後に自分の良心に責められて煩悶したり致しますが、竹の素直にして蟠りのないのに、どうか傚ひたいものであります。

＊

梅は激しい寒さに堪へ、霜や雪の冷たさを忍んで、氣品のある花を咲かせ、淸い香を放つて、春の魁をいたします。そして此の梅は、人工的に造つた庭にはあまり調和しないで、農家の垣根や、野外の畦道などによく植ゑられて居ります。今年の勅題の田家早梅は、まことに自然の趣に適うた景色の御題のやうに拜察いたしますが、此の梅は、諸子に何かを敎へて居るものではありますまいか。どうぞ松竹梅の無言の敎を、心の耳をすましてお聽き取りなさるやうに。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ほんとうの女

上田素水

□婦人が問題になる

僅かの間に世の中の様子がスッカリ變つてまゐりましたので、種々新らしい事が見られ又聞かれます。其の一として、近頃は『女子の覺醒』とか『婦人の自覺』とかいふ言葉が盛んに繰返され、それについての種々の議論も聞かれます。これは誠に結構な事で、此競爭の烈しい世の中になりましては、女子も男子と倶々に力の限りを盡して、家のため又國のために働かねばなりません。國際競爭はこれからます／＼激しくなります。安閑として居ては迚も一國の勢力を強めるどころか、現在の地位を保つことさへ出來ない譯であります。女子も十分覺醒せねばなりません。

□穿きちがへた婦人論

併し其の自覺といふ事を穿違へぬやうにせねばなら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ぬと思ひます。女子が自分の天性を知り、其の天職のあるところを覺つて、忠實にこれを盡さうとする、そこに最も貴ぶべきところがあるのです。私共は女子の職分も種々あるのだが、其の中で最も大切なのは、矢張り強壯な子供を澤山に生み、それを立派に育て上げて社會に送り出す事だと信じて居ます。これは自然が命じた天職で、誰が何といつても動かすことは出來ないのです。人間が自分の淺墓な智慧を振り廻して、この自然の大法を無視するやうな事がありましたならば其の結果は必ず悲しむべきものであらねばなりません。近頃の所謂自覺論者の中には、往々「家庭の束縛から逃れよ、結婚は多くの場合にあまり樂しいものではない、子供は面倒なものだから澤山に育てるには及ばない、文學を味へよ、藝術に親しめよ、そして社會的に活動せよ、時勢が變つたからイツまでも昔ながらに狹い家庭の天地にコセ〳〵して居るには及ばないではないか」といふやうな意味の議論を唱へる人が隨分あるやうに見受けます。ヨシ明らさまにさうまでは言はないにしても、結局はここまで到達すべき說をする人は稀でないやうです。ダガかかる議論は取りやう、見やうで頗る危險な說で、場合によつては明かに有害なものだと思ひます。年若い人々はよく注意して、かかる議論に迷はされぬやうにせねばなりません。

□普通の女は普通の仕事

人間のあらゆる仕事の結局は、社會の進步であらねばなりません。そして其の階段として國家の隆昌、家庭の圓滿幸福といふ事が圖られねばなりません。男子が其の天職のある所を自覺して、それに全力を傾けて社會の進步、國家の繁榮、家庭の幸福を圖るべきと同樣に、女子も亦自らの天分を知つて、其の天職を果すここに努めねばなりません。自分の淺墓な智惠や自惚心からして、自分は何か一ト角の天才でもあるかの如く思ひ、或は又何か特別な使命でも授けられたかの如く考へて、內を外に驅廻つて家庭の整理子供の教育といふ大切な仕事を等閑に附するやうな女子は、決し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て譽めたものではありません。天才は滅多にあらはれるものではありません。特別の使命を授かるなどといふ事も、サウ誰にでもあるべき事とは思はれません。普通の人は普通の業務に骨折つて、普通の方法で社會國家のために盡すのが、最も安全で又最も貴ぶべき事だと思ひます。

自惚女は困りもの

私の知人に男女八人の子を育てたのがあります。長男は日露戰爭に出征して、武運拙く遼陽攻撃の際、首山堡の露と消えましたが、次男三男も皆強壯なものでありましたから、何れも軍隊に入りて、國家の干城たる任務を果して歸つて居ります。今頃はたしか、四男が入營中だかと思ひます。女子もそれぐ\相應の家に嫁ぎまして、孫も大分あります。兩親は格別敎育のある者でもありませんし、たゞ世間並に實業に從事して居るのでありますが、大勢の子供を養育して、國家のために役立たせて居る事は、誠に感心なものだと、私は常々嘆賞して居ります。ナマジッカな文學者と自惚れたり、藝術家だと鼻ウゴメかして、然かも風俗壞亂の媒介をするやうな者に比べると、私はこの方が餘つ程エライ者だと思つて居ります。人は其の才能に於て種々の差別があります。又境遇に於ても樣々でありますから、一概に言ふことはできません。眞に天才的である人、又自然に來つた境遇上、特別の事業に從事する方が、家庭の人になるよりも、ヨリ多く社會に貢獻し得らるるならば、それは勿論例外です。私はソンナ人まで強いて家庭に入れやうといふのでありません。ソンナ人は、それぐ\其の特長を發揮する事に努力して、少しも異論はありません。タダ眞にソンナ人は多くあるものでないといふことを悟らねばならぬと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

二十一世紀は婦人の世界

天野藤男

(一) 妻となる前に人となること

強く、優しく、まじめに、働けといふのが、處女會訓でございますが、是は何も處女會員だけの敎へではなく、一般の御婦人の守るべきことと思ひます。いえ、女ばかりでなく、男もこの心掛が大事だと考へます。

この會訓の中には妻とか母とか申す言葉がありません、其は、女として、又人として守るべく、進むべき道を示したのであります、立派な女となり、人となれば、其の人が妻となれば、よい妻になりませうし、母となれば、立派な母になりませう。姑さんになつてもよく家庭の後見をしませう。昔は良妻賢母といつて、女の進むべき道は此より外にないように思つてゐました。良妻賢母をつくるのは、固より必要でありますがその前に、良い女、賢い女、良い人、賢い人となる必要があります。良妻賢母となる爲に、女として、又人としての天分を失つてしまつたような人が少くありませんでした。

(二) 寄るとさわるとかげ口

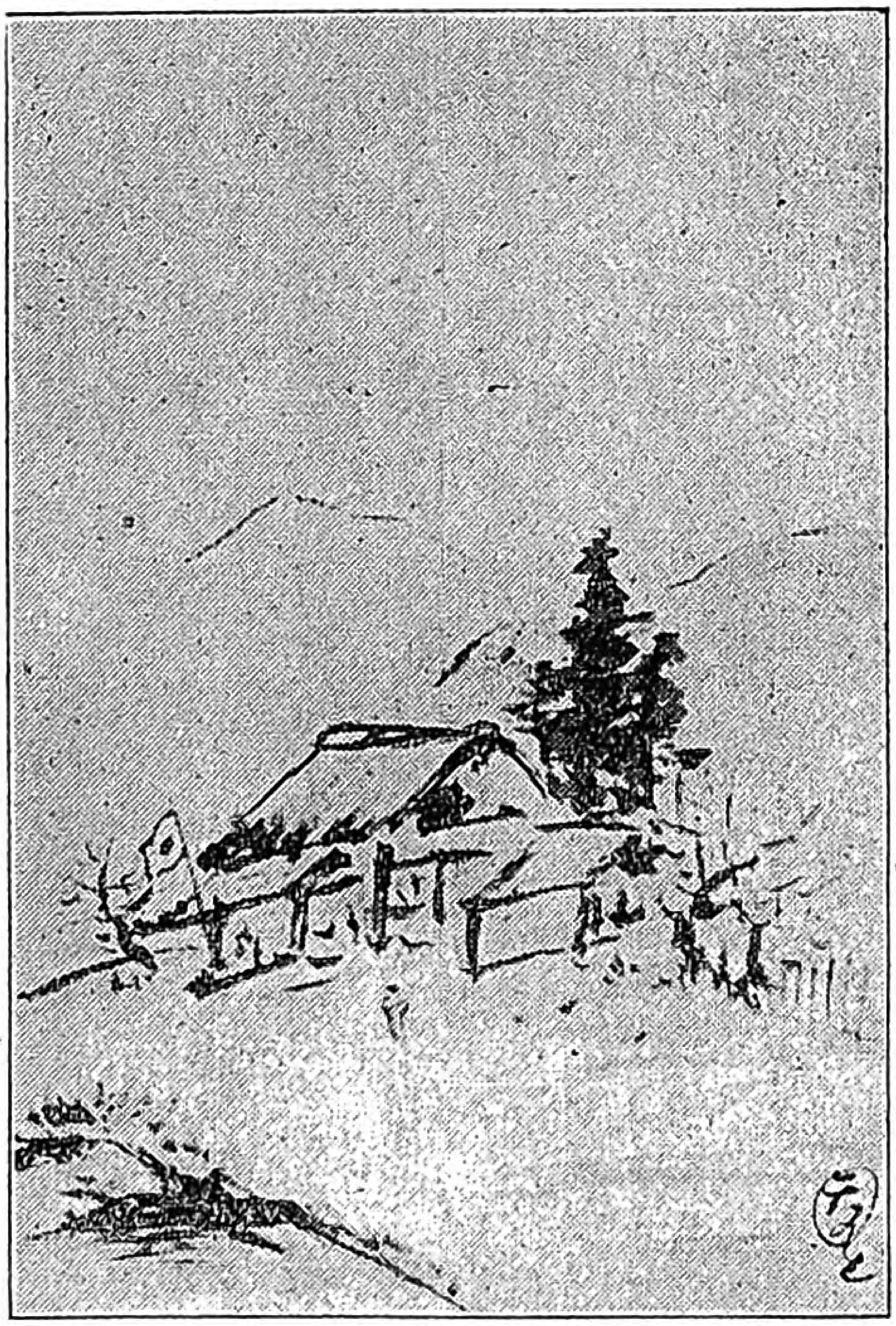
是からは、女子の敎育の機關も殖えて來ました。志を堅固にして勉强すれば、學者にもなれば、お役人に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

もなれる、飛行家にもなれゝば、大學校の先生にもなれます。今までは、女に學問もさせず、智慧もつけず只家の中に置いてそして、夫や姑さんの御機嫌とりを主もな仕事としてゐたものですから、自然と女は引つ込み思案となり、世間のことに暗く、身體も弱々しくなりました。狭い家に火鉢をかかへて針仕事ばかりしてゐたものですから、目のつけ所が針の穴のように小さく、氣も針の穴のように狭くなり寄るとさわると、世間の噂さ、やれどこそこの誰さんはこんど來たお嫁さんを虐めるとか、いえ眞は姑さんの方が惡るいとか、新田のお花さんは何圓の帶を買つたの、お菊さんはこんな下駄を買つたの、其が一度穿いたら割れたとか、さういふ樣に、話しても話さなくてもよい樣な小さなことばかりしてゐました。其も多くは、惡る口、かげ口が多く、譽めるとあべこべに、貶したがる女さへあるのです。

然し是は女ばかりの罪でなく、女を家の中の檻にしまつてどこへも出さず、何も知らせなかつたから、勢ひ考へが家の中、火鉢のまわり、臺所の隅にばかりに漂つてゐたのです。

田舎の新年



あまの筆

(三) 感心した西洋婦人

先頃上州の温泉にゆきましたとき、電車の中に二十歳ばかりの西洋婦人が居りました。温泉場に別莊でももつてゐると見えて、すべての樣子が馴れてゐます。その中一人の紳士が乘つて來ました。婦人と挨拶しま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

した。二人は日本語で話し出しました。其を聞いてゐると、流石に西洋の婦人はヱライと感心いたしました。(わるいところは別として)

何でも話しは、戰後の經營といふ樣なことでしたが紳士が話し出しますと、婦人は

『いえ、いえ、私はさうは思ひません。亞米利加の態度にも油斷の出來ない所がございます、日本は今少し定見をもつことが大事だらうと思ひます。』

といふように、テキパキと返答致します。思ふことを、サッサつと言ひのける其の樣子を聞いてゐますといかにも氣もちがよくありました。

日本のお孃さんは固より奥さん達の中で、こういふ問題をまじめに考へる人がありませうか。話してもわからぬばかりでなく、そんなことは、男の考へることお役人のすることと考へ、甚だしいのになると、女で政治のことや、法律のことなど話しますと、女らしくないといつて惡るく言はれます。そして、汽車電車で話すことは、いつも

『ちよいとあなたこんどの帝劇ごらんになつて、京人形隨分よいわねえ。』

『あなた三越の裾模樣の展覽會まだ？　隨分よいのがあつて』

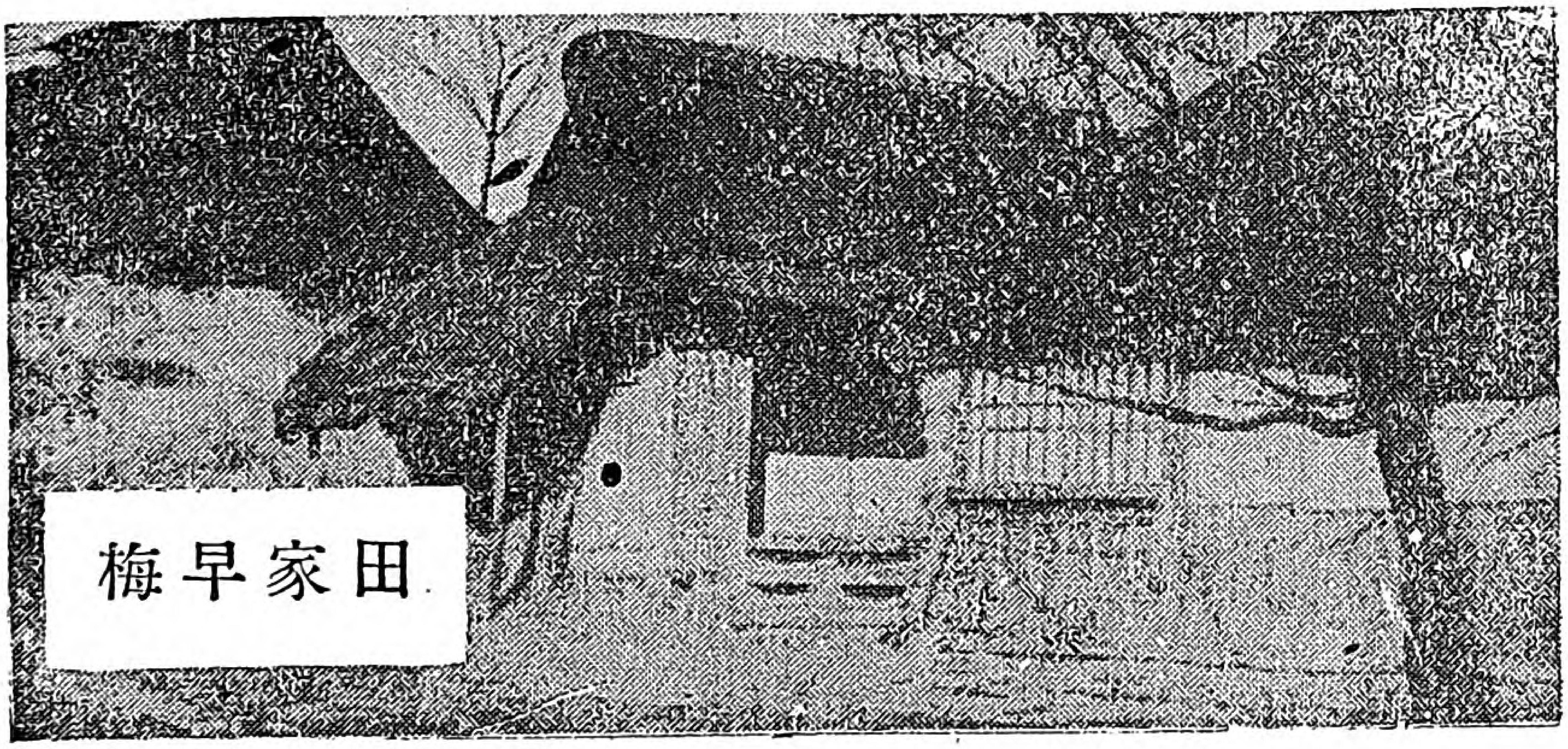
といふような娯樂か服裝に因んだ會話にきまつてゐるのです。さもなくば、人の惡口カゲロ――

もうこういふ時代でありません。

(四)二十一世紀は婦人の世界

勞働者も人である、自由を與へよといつて噪ぎ出しました。小作人も人である、權利を與へよといつて噪ぎ出しました。婦人も、我は人である、男の奴隸ではないといつて運動を起こしました。之が婦人運動です。處女會が敬老會を開いたり、お料理の講習をしたりするのは、婦人運動ではありません。處女會員が申し合せて、婦人としての面目、地位を高める爲に、結束して起つて始めて處女會が婦人運動を始めたと言はれます。ゆく／＼はさうなつて欲しいと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



田家早梅

四國の田舍の娘さんへ

四國の上浮穴郡田後村の處女會員の〇〇樣からのおたよりです。

『つたない筆御許し下さいませ、あゝおなつかしき中央部記者樣には此の寒さを、いかゞ御暮し遊ばされますか、私しは、東しのいなか娘です、何卒御ひいき願ひます。私は本年十月より御貴會御發行の處女の友を無上の友と至して働いてゐる者でムいます。私は明けても暮れても山に働く

◇我身は不仕合せと思ひ◇

し心が時々出てなりませんでしたが、處女の友としたしみ初めましては決して〳〵そんな心はいづこかへ飛んで日々手にせしクワ、カマも輕く難儀をする身が樂しく暮らせる樣になりました。

あゝ記者樣、私の地方にもいたる處處女會少女會が開かれて居ます。私の村では昨年二月に臼杵少女會を開催致しまして毎月一回づゝ修養會を開く事に致して居ます。私の村は大てい農業家でありますから青年も婦女もごくまじめに實業に從事致します。したがつて會の時などでも、服さうな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ごいたつて質素であります。私は此のたうとい『處女の友』を唯一人讀んだのではすみません、私がなかつしき會員にすゝめます。

あゝ處女の友にしたしみ初めましてから◇樂しく月日が◇送れます。何卒〳〵かしこ。

愛媛縣上浮穴郡田後村臼杵
處女會員
○○○○より

この手紙は、作文としてよこされたのではなく、記者への便りでありますから、わざと名前は掲げませぬが、文章は一字一句そのまゝでございます。

回

○○子さん――

私はいくどもあなたのお手紙を拜見致しました。あなたの文字は、私をおどろかせるほどお上手でありません。文章も名文といふのではありません、もつともつと上手にかいた便りが始終參ります、けれど、あなたの手紙は私の心を動かしました。『山に働く我身は、不仕合せと思ひし心が時々出てなりませんでしたが』といふ所ついて、私の胸は一ぱいになりました。私はあなたのその日〳〵のお暮らしをいろ〳〵想像してみました。山に働くといふ以上田舍でせう、田舍にちがひがない、鎌鍬をおもちになるといふから草刈に出られる時がありませう耕作にも出られませう、いえいえ大抵の日には、山に野に働いてゐらしやるでせう。私は鎌を片手に草刈籠を背負つて、淋しさうに家を出るあなたの後ろ姿を想像してみました。いえいえあなたには、なつかしい兄さんもおいでゝせう、かわゆい妹さんもゐませう。山へ出るときには、揃つて出かけるでせう。淋しくはない、少しも淋しくはない。家へ歸つて、それから納屋へ道具をしまつて、前の小川か、井戸端で足を洗つて、それからお風呂に入つて、ごはんたべる。電燈か、ランプか、どちらにしてもなつか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

しい、暗くづてもなつかしい、みんなして、笑ひながらごはんをあがる、弟さんが大きな聲して本をよむ……こんなことをそれからそれへとひとり考へてみました。

■

然しまた考へてみました。山里ですもの、淋しい時があるにちがひない、にぎやかな町を胸に浮べ、はなやかな雜誌をみて、ごじぶんの姿を省み、淋しくなることもありませう。仲むつまじい一家の中でも、いやなこともありませう。お兄さんがお嫁さんを貰へば、他人も入るわけ、氣づかひも出來ませう。あなたはおいくつか、十八か十九か物にあこがれ易い頃です。美しいもの、明るいところ、はなやかなもの丶目につく頃です。小鳥のように蝶々のように舞ひ、たのしく、陽氣にくらしたい頃です。活動寫眞もみたいでせう、お芝居もみたいでせう、都のお友達のたよりを聞き、村から通つてゐる女學生の姿をみて、羨ましい、ねたましいと思ふこともありませう。さむい〳〵風の吹くときの山ゆき野良ゆきはさぞつらいでせう。と思ふと夕ぐれ赤い頰をして、山から歸つて來てランプの下で手つ甲を外づすあなたの姿が見えます。右の手のヒビが見えます。足のアカギレも見えます。さぞいたいでせう。お湯にしみるでせう。あなたが「我身の不仕合せ」を御思ひなさるのも、ごむりはないのです。十分にあなたの心を察します。

■

然しあなたは、よく考へて悟つてくれました。『處女の友』はまだ〳〵不十分です。あなた方の心を慰めるお友達にはなれません、けれど、他の雜誌よりは、少しは、野の乙女の味方になつてゐる筈です。私は永く田舍に居つて、よつく野の乙女のくらしを知つてゐます。私は男ですが、田舍が淋しいつまらないと思つたことがありますもの、お察しします。然しよく考へ直して下すつた『日々手にせしクワ、カマも輕く難儀をする身が樂しく暮らせる樣になりました』とはなんといふたふとい、力強い御心でせう。さうです、わがも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

のと思へば輕し傘の雪です。悟り樣によつては重くもつらくもない、淋しいと思へば淋しいが、たのしいと思へば、たのしい。淋しい所にゐて、賑やかな樂しみをしようと思ふからこそ苦しいのです。鍬鎌を持つて暮らす身に何のよい着物かと思へば、野良着もたふとい、草履も輕い、埃仕事も氣樂になります。お百姓は目には見えないが、天地の神樣の溫い懷に抱かれてゐるのです。土をきたないと思つてはなりません、土は不思議な生命が宿つてゐます。土は生きてゐます。たしかに生きてゐます。土に顔をあてゝねてごらんなさい、ぽか／＼と溫か味が肌にしみます。野にゐるとき、私は淋しくなると山へいつてねころんでゐました。ぽか／＼と身體が溫くなります。誰かゞ地の中で『お前は仕合せだ、わしはお前を守つてやる。』といふやうに聞えました。あつい涙が頰をながれることもありました。

▣

○○子さん、あなたがこの文章をおよみになる日はお正月の幾日でせう、舊ですか、新ですか、元日は御雜煮、あなたは、家の重役、お母さんの片腕となつて働かれるでせう七草には七草のお粥、お大根をきるやら、お餅を切るやらお飾りを外づすやら、忙しい中にたのしみもありませう。夜は圍爐裡をとりまいて、火を焚きながら、親子水入らずの物語り、外には木枯しの風がピユー／＼吹きますが、家の中はあたゝかい、○○子さん、あなたは、きつと／＼その圍爐裏のそばに『處女の友』をもつて來てごらんになるでせう。みなさんに讀んで聞かせてあげて下さい。慈愛のお父さんお母さんの姿も見えます。この平和なところへ、私が急にいつたらあなたは、さぞおどろくでせう生涯の中に一度私は田舍を巡禮したいと思ひます、きたない着物着た旅すがたの私が、あなたを訪ねたときあなたは泊めて下さるか。圍爐裏の火を焚いて、私を溫くしてくれますか。

○○子さん、ついいろ／＼かいてしまひました。どうぞ／＼正しい野の乙女として希望に充ちた前途を開いて下さい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

俳句いろは歌留多

岡山縣津山高等女學校長

堀尾金八郎

俚諺をいろは順に列べ之をカルタとして子供の玩具にしたのは何時の頃から始まつたのか能く知らないが敎育上極めて有効のもので之によりて俚諺を覺えさせると共に言葉や文字をも覺えさせることが出來る然るに西洋風の敎育法が輸入せられてから一向識者に顧られず更に改良せられた跡がないのは遺憾なことで是非これは幼兒の敎育に利用さるべきものと思ふ私はこの事に着眼して更に選定を終へたが其の後俳句カルタのことに思ひ及んでいろは順に列べて見た。

俳句は僅十七文字の中に深遠な意義を寓し而も平易にして何人にも理解し易く平民文學として極めて適當のものであるされば古來學問なき平民の間に發達して平民文學の價値を發揮したが今日此等の句を讀むと浮世の塵埃を離れて如何にも心の高潔になるやうな感じもする私が今此に輯めたのは意味の上乘なるものではなく子供向で繪に表すのに都合のよいもので俳句カルタを作るのに便利にしたのであるされど此の句を玩味したならば必ず一種の興味を覺ゆると共に俳句の妙を感ずるであらう。

い　稻妻や昨日は東今日は西（其角）

自然の儘を寫したものであるが同時に世の中の有爲轉變が思ひやられる

ろ　六月の花か吉野の雲の峰（孟遠）

幾度も繰り返したら夏の空が花のやうに見ゆる樣が分るであらう

は　花盛り山は日頃の朝ほらけ（芭蕉）

都會の人には分るまいが花の咲き盛る頃の山の曙は平常見る處と同じであるが又一入の感がする

に　虹かゝる行衛かくれぬ枯野哉（司鱸）

秋の夕方空に虹がかゝつて居るが脚は消えて居る寂しい時雨の晴れ間が思ひ出らるゝ

ほ　ほとゝきす一聲夏を定めけり（蓼太）

杜鵑の一聲で夏になつたとが分る言葉に力のある句で一葉落ちて天下の秋を知るさいつたも同樣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

へ　蛇喰ふと聞けば恐ろし雉子の聲（芭蕉）

外貌丈では人は判断されない其の性質を知ると餓におぢけが付くともある

さ　蜻蜓や何か味ある竿の先（探丸）

蜻蜓が竿の先にとまつて居る様は竿の先をなめて居るやうに見える追つても復た來て止る何でもないをだが味を尋れて來るやうに見立てた處が面白い

ち　散る時の心安さよ芥子の花（越人）

芥子の花は大きな花瓣が無頓着に落ちる其の無頓着な散り方が如何にもこせ〳〵せぬ面白味がある

り　雨の手に桃と櫻や草の餅（芭蕉）

桃や櫻の咲き盛かる頃餅を作り野邊に遊べる様が思ひ出らるゝ

ぬ　脱ぎ棄てゝ角力となりぬ草の上（太祇）

子供が着物を脱ぎ棄てゝ芝生の上で角力を始める様子が如何にも寫實的に面白い

る　留守勝の妻をもてなす花見かな（春來）

始終留守勝にして居る亭主が女房に氣の毒に思つて花見に連れて行くのか、餘り勝手に出歩く人が妻の御機嫌とる爲に花見に連れて行くのか見る人の心に任せて置かう

を　桶の輪の切れて鳴き止むきり〳〵す（昌房）

寒くなつた秋の夜使ひ古した桶のたがごそつといつて切れる其の音に驚いてきり〳〵すが鳴き止む如何にも秋の夜の靜な様子が思はれる併し此頃のやうに針金のたがゞ多くなりバケツなどが澤山使はふ様になつては此の味を味ふとがむつかしからう

わ　若楓茶色になるも一盛り（曲水）

花一時人盛りの時期がある

か　蟷螂も鳥の嘴にかゝりけり（其角）

斧を振つて龍車に向ふと言はれる通り蟷螂はやたらに鎌を振り立てる併し鳥に逢つては仕方がない是れが生物界の現象である

よ　宵に見し橋は寂しき月の影（一髪）

宵のうちは人通りの多かつた橋も更け行くにつれ行く稀に只寂しげに月影を宿して居る

た　田と畑を一人に頼む案子かな（一泉）

讀んだ丈でよく分る而も餘音がある

れ　料理あり錢に冬なし旅もなし（重頼）

餅へ出せばどんな御馳走でも出來るし旅行しても不愉快なとはない金錢の功力は昔も今も變りがない

そ　雪舟曳や屋根から呼ばる届け状（一茶）

雪國で雪が降り積つた様子が如何にもよく分る屋根から雪舟曳を呼びかけて手紙も頼む、暖國の人にはとても想像が出來ない

つ　月濁り澄めり浮世の濁り水（吐月）

濁り水にも月は澄渡つて明な影を宿して居る其の高潔の風情は人の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

心を清からしめる

ね　猫の子の組んづほぐれつ胡蝶かな(其角)

二匹の猫の子が組みあつてざれて居るさまか恨に見える

な　撫子花や照るも曇るも花の爲(希因)

親の慈悲が色々の形になつて現はれる

ら　來年は來年はとて暮れにけり(露川)

なまけ者の節季働きで兎角人は一日一日と繰り延べる傾がある年の暮になると嗚呼今年は何もせずに過した來年からはきつとと言ひながらやれ正月だやれ今日は加減か惡いなどゝ一日一日と日を送り年の暮になつて同じことを繰り返す大抵の人は此の露川と同感であらう

む　蟲干に小袖着て見る女かな(冬文)

暑いのに御苦勞ながら手を透して見たいものこれが乙女の心である

う　鶯や花は散るとも飛び廻はれ(鬼貫)

梅に鳴く鶯花が散つても鳴いて欲しい

ゐ　井の端の櫻あぶなし酒の醉(秋色)

秋色女の名吟、酒醉の爲にゆり散らさるゝ櫻こそ氣の毒である

の　野仕事のしまひうれしき月夜かな(羽律)

農家の仕事は中々忙しい日が暮れかゝつても仕事はすまない困つたと思つて居る時に幸に月が光を送つて吳れて仕事を片つけることが出來たかういふ感じは農家の人々にはよくあるものである

お　負ふた子に髮なぶらるゝ暑かな(園女)

母親の苦勞が思ひやられる

く　草よ木よ汝に示す今朝の露(盤桂禪師)

流石は盤桂禪師の句丈あつて誠に壯重である今朝のたつぷりした露には草も木も露の惠を十分に感じたであらうこれは平生も其の通り露の惠を受けて居るのである

や　八重霞遠山ならぬ山もなし(百菴)

春霞深くして遠近の區別定かならず何の山も皆遠山の樣に思はれる

ま　まざ〳〵と在すか如し魂祭り(季吟)

魂祭りをする樣子如何にも謹厳で祖先の御魂が其所に居ますやうである

け　鷄頭の散るをば知らぬ日數かな(至曉)

芥子の花は無頓着に散るが鷄頭は散る時がない花も樣々人も色々

ふ　吹く風の相手や空に月一つ(凡兆)

冬の夜寒に吹く風の身にしみて人の戸外に出づるを厭ふ頃の淋しき樣子が思ひやらるゝ

こ　琴の音に猫眠らせよ秋の暮(野水)

讀んだ丈で分る併しこんな靜かな樣子は今日多くありやなしやだ

え　緣に來て箒にかゝる蛙かな(嘯山)

夏の初雨繁き頃田舍にては往々疊の上に青蛙の飛ぶとありこれは其の寫生なれば其の頃の樣子が思ひ出される

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

て　手から手へ移し煩らう螢かな(太祇)

螢狩に經驗のある人はよく知つて居る所で螢を取て螢籠に入れやうとすると中から螢が出て來る右の手に這ひ上るから左の手で取らうとすると左へ移るまた右の手で取らうとするひどく抓めば死ぬるから心配でそつとする暗いから甘くつかまらぬ此の樣子は都會の人には一寸想像が出來ない

あ　朝顏に釣瓶とられて貰ひ水(千代)

有名な加賀の千代の作或朝井戶に水汲みに行つたら釣瓶の竿に朝顏がまきついて花が咲いて居たどうも其のしほらしさを見ては切り棄てるとが出來ないそれで態々隣家へ水を貰ひに行つたとのとであるが多分數日家を留守にして居たとであらう兎に角やさしい心がけが讀む人の心に共鳴を感じさせる

さ　早乙女の下り立つあなた此方かな(太祇)

田植の樣子目に見る如し

き　行水の棄て所なき虫の聲(鬼貫)

秋の夕虫の鳴く聲しきりにして行水を棄つべき所なし虫を溺れさすを恐るゝ婦人の慈愛美しき！自然の音樂を停むるを怖るゝ優美の心が能く十七文字の中に現れて居る

ゆ　夕顏や蚊の鳴く程の暗さかな(偕雪)

夏の夕夕顏の白く咲く頃蚊の聲も聞ゆるなり此の句に對し何等かの聯想あるべし

め　明月に何を急くか帆かけ船(貝錦)

俳人は明月とて中秋の月を賞すれども船頭は今日の生業に忙しく帆をかけて走るなり二者の心情を比較して極めて興多きを見るであらう

み　水桶にうなづき合ふや瓜と茄子(蕪村)

讀んだ丈で面白味が湧くであらう

し　澁柿の赤きに迷ふ心かな(卜我)

澁柿と思ひながらも餘り奇麗で甘さうであるからつひ取つて見て口に入れると矢張り澁い大抵の人には此の經驗があらう梅雨の候連日の雨で月のとなどは忘れてしまつて居たのにふと見れば松の上に月か見へた何たる情趣ぞ

ゑ　繪にかゝば朝のうちなり樹々の雪(巴東)

寒田ではさうもないが暖國の雪は朝の内に急いで寫さないと雪が消えて落ちる其のぼた〳〵落ちる樣子が思ひ起される

ひ　雛祭る都外れや桃の花(蕪村)

雛の節句は又桃の節句といふ位で桃の盛りである夫れ故都の人が雛を祭つて居る頃は都外れの農村では桃の花が咲て居る其の頃の景色が眼に見える樣である

も　もの言へば唇寒し秋の風(蕉芭)

あまりお饒舌するとき後悔することあえ

せ　精出せば氷る間もなし水車(蓮之)

俚のやうに人口に膾炙して居るから說明の要はあるまい

す　裾たもと濡して雪の若菜かな(之祐)

雪の中を探して七草を摘まうとして裾や袂濡して居る可憐の少女今はありやなしや

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

日用熟字展覧會

勞資（勞働と資本）協調（調子を合せること）調停（中へ入つて仲直りすること）妥協（兩方が折れ合ふこと）國際（國と國とのつき合ひ）聯盟（お互に約束し合ふこと）過渡時代（ある時代からある時代への途中）原則（本來のきまり）除外例（例外といふこと）同盟罷工（ストライキのこと大勢申合せて仕事をしないこと）不作同盟（小作人が申し合せて地主の田を作らぬこと）物價調節（ものが高いのでねだんを丁度よくすること）合理的（道理にかなふ）繼續（つゞけること）結束（大ぜいして申し合せはなれぐ＼にならぬこと）眞因（ほんとうのわけ）檢擧（事件を起した人をしらべその人をあげること）檢束（その人がどこへも出られぬよう足どめをすること）緩和（やわらぐこと）犧牲（そのことの爲に自分の利益や地位をすてること）密告（こつそりと知らせること）捜索（さがすこと）壓迫（自由をおさへつけること）官憲（政府の權力）單純（こみいらぬこと）昇格（學校などの格を上げること）白熱（熱し切ること鐵が白くなるので運動が熱しきつた時につかふ）持久（どこまでもやりとほすまでもちこたへること）生活改善（衣食住の暮らし方を改めよくすること）民力涵養（民の實力を養ふこと）節約（けんやく）虚禮廢止（むだな禮儀つまりむだな贈り物等をよすこと）能率（人のはたらく力）徑路（みちゆき）宣傳（プロパカンダといひ方々へ傳へ知らせること）打破（うちやぶること）舊習舊慣（時代にあはぬふるい習はし）殉難（難儀の爲にわが身をすてる）撤廢（やめること）痛嘆（なげかわしい）暴露（かくして居つたことがあらはれる）示威運動（ある目的の爲に大勢が旗などをもつて目にたつことをすること）就業（仕事につくこと）解決（きまりがつく）氣勢（いきほひ）美擧（りつぱな行ひ）交渉（相談をかけること）貫徹（つらぬきとほす）宿望（永い間の望み）遷延（のびのびになること）壓力（おさへる力）筋肉勞働（おもに身體をつかふ勞働）穩便（おだやか）具體的（事柄をあげること）鼓吹（ひろめること）狼狽（あはてること）簡易生活（暮らしを簡單にすること）因襲（しきたり）機會（をり）意嚮（こゝろゆき）紊亂（みだれること）贊同（賛成と同じ）創設（創め起す）適應（適しかなふ）順應（適應と同じ）改造（つくりかへること）因緣（緣のつながり）使途（使ひみち）矯正（改め正す）廓清（もとを清すく正しくる）禁酒（酒をのまぬこと）禁煙（煙草をのまぬこと）風敎改善（風俗を改めよくすること）調印（印をおすこと）普通選擧期成同盟會（普通選擧の目的を達せしむる會）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

日本に娘が幾人

―處女會中央部調―

◎二十三までが四百萬人

大正五年末に於ける我邦人口は五千七百十九萬九千二百七十七人にして、此中男子二千八百八十五萬一千九百二十六人、女子二千八百三十四萬七千三百五十一人、男子は女子に比し、五十萬四千五百七十五人の過剰である。(世界各國に於て男子數が女子數に超過してゐる國は日本のみである)

次に我邦に於ける結婚年齢をみるに、平均ともいふべき標準婚齢は、男子二十七歳女子二十三歳である。(高野博士『本邦人口の現在及將來』に據る。)然しながら是は全國を通ずる數で、農村は都會地に比して婚期稍早く、概ね二十歳前後を普通とするように思はれる。今全國に於ける妙齢女子の數を調査してみると、

十三歳より二十歳まで	三、五三九、一四四人
十三歳より二十三歳まで	四、八一〇、〇〇七人
十三歳より二十五歳まで	五、六一三、九二五人

十三歳を標準とせるは義務教育の終了を標準とせるものである。してみれば、義務教育終了後、結婚年齢たる二十三歳に至る我邦妙齢女子は、約四百八十萬人を有するわけである。

◎田舎の娘さんの數

然るに、この數は、都會と地方とを通じての數字であるから、更に農村のみの若き婦人數を調べてみると、

十三歳より二十歳まで	二、八三一、三〇五人
十三歳より二十三歳まで	三、八四八、〇五六人
十三歳より二十五歳まで	四、四九一、一四〇人

地方處女會は義務教育を終了してから嫁入りするまでの娘の會であるから、二十歳を農村の結婚年齢とすると、二百八十萬人の處女がゐる譯である。二十三歳とすると、三百八十萬人となる。

次に尋常小學校を卒業して、高等小學校又は女學校

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

に入學するものは、幾割あるかと福島縣の一郡で調てみると、百人中約三人の割合であつた。之を全國に當てはめると、十三歳から二十三歳までの農村女子三百八十四萬八千五十六人中百十五萬四千四百六人は高等小學校及女學校に入學し、又二百六十九萬三千六百五十人は自宅に居つて家事に專念してゐる娘である。

次に我邦處女會婦人會の有樣をみると、全國で百四萬九千六百五十二人、尤もこの中には、主婦もあるが假りに處女のみとするも、自宅に居る娘二百六十九萬三千六百五十人中から差引くと、百六十四萬三千九百九十八人といふ娘は、高等小學校にも女學校にも、又處女會にも入らぬわけである。

是れ處女會中央部が、處女會の發達に骨を折らねばならぬ理由である。

次に大正六年十二月末日農商務省の調査によれば我邦の工場は一萬九千四十七にして、其の勞働者數は一一二〇、三二八人、其の男女別をあぐれば

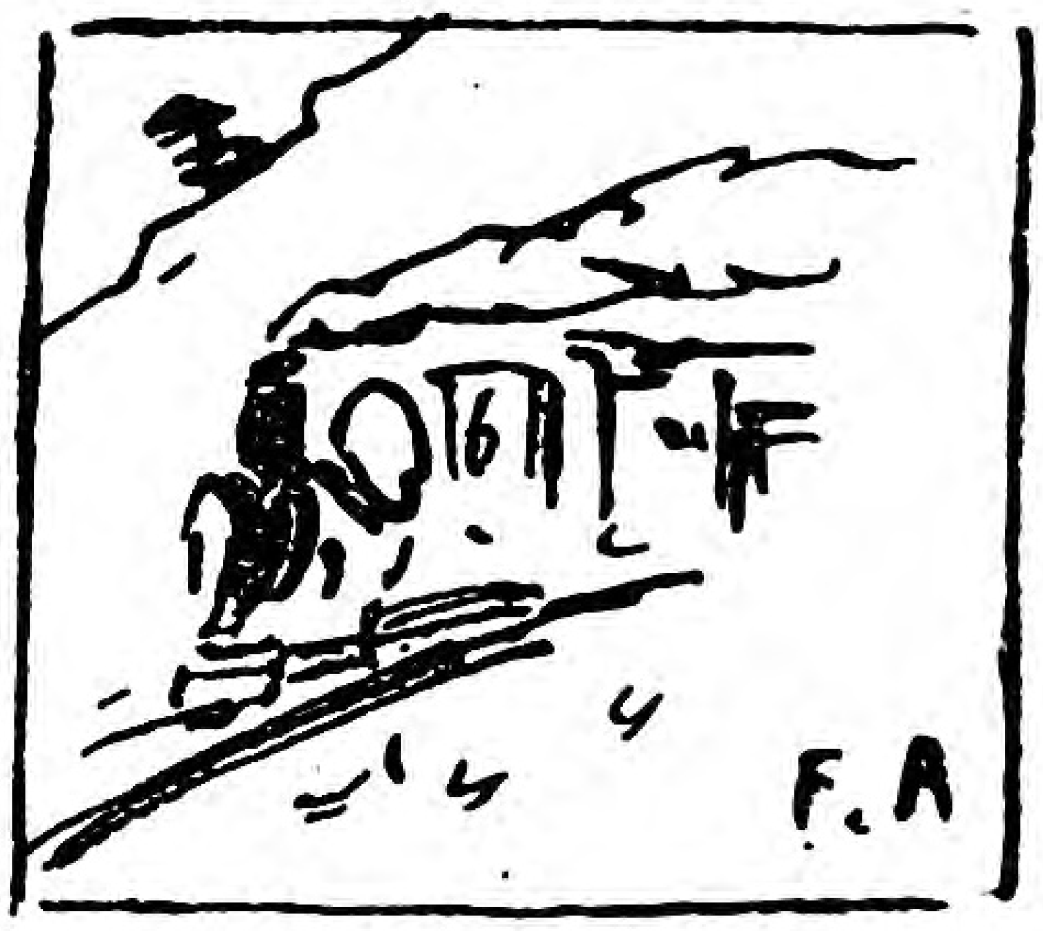
男　四九五、四四二人
女　六二四、八八六人

尤も是は工場法の適用を受くる工場のみの調へであるが、十五人以下の職工を使用してゐる工場及專賣局印刷局其他の官營直轄工場及工場に準ずべき場所に働く職工を加ふれば、我邦勞働者の數は百五十萬人以上に達し、女子勞働者は八十萬人以上に達することゝ考へられる。

次に女子職工の中女子のみについてみるに、其の八割は地方卽ち農家の娘であると推測せられる。六十二萬四千人とすれば其の八割は五十萬人となり、女工八十萬人とすれば、六十四萬人は地方出身者となる道理である。工場と地方との關係密接なることは、之を以ても明瞭である。

今や地方は好景氣であるけれども、米價糸價の現狀は永遠に現狀を維持するとは保證が出來ぬ、之に加へて土地の不足、人口の增加と相俟つて將來地方女子と都會若くは工場會社との連絡は、更に一段の密接を加へ來るべきことは、勢の當然である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



都にあこがれて（其の四）

白雲生作

◎エッ剛情なあま奴が

（活動寫眞と合ふやうに、今月號からおきみをお房にかへお房をおきみとします。）

おきみの物語りを聞いたお房は、さては此家はそんな怪しの家であつたか、さう思へば、深切さうに伴れて來てくれた人の樣子が變だつたと、思ひあたるふし／＼もあり、俄かに恐ろしさと、悲しさとが胸にこみあげた。

『もし／＼そんなに聲を出すといけません、今に歸つて來ますから』

おきみは、あべこべに、お房をいたわるのであつた。

途端表口に足音がして、グーッと戸をあける音がした。お房は轉けるやうに自分の部屋に歸つて、寝たふりをしてゐた。

『あゝ酔つた、えゝ酔つぱらつちやつた、ウムけんど、けふは、よいあまをみつけたもんだ、お天道さんのお助けだ、ウ、酔つた……』

孝女白菊の歌（二）

夜もやうやうにあけはなれ
心もなにかありあけの
月のひかりに影おちて
庭のやり水おとすごし
少女は寺をたちいでて
まだものぐらき杉むらを
たどりてゆけば遠かたに
きつねの聲もきこゆなり
道のゆくての枯尾花
おささやさやさうちなびき
ふきくる風の身にしみて
さむさもいさゝまさりけり
巖根けはしき山坂を
のぼりつおりつゆくほどに
みやまの奥にやなりぬらむ
人かげだにも見えぬなり。
梢のあたりきこゆるは
いかなる鳥のこゑならむ
木かげをはしるけだものは
熊てふものやにあるならむ
こゝは高嶺かしら雲の
袖のあたりをすぎて行く
わが身をのせてはしるかさ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

居酒屋かなんかで酔つぱらつて來た先の男は、荒々しくこんなことをいひながら、這入つて來て、いきなり、お房の部屋の障子をあけた。お房は早鐘のように鳴る胸を抑へて、ヂッと寢たふりをしてゐた。

『ウムよつく寢てゐやがる、可哀相にな、ヘン、手前の可愛想は、此方のお仕合せだ、ウムよつく寢てゐらあ』

此の時の一分は、一時間より一日より長くお房に思はれた。惡主人は、何んと思つたか、火鉢の横の柱にかけてあるどてらを卸して、

『可哀さうに、寒さうな顏してゐる、風邪を引かせちやあ折角の玉が臺なしぢや。』

と千鳥足によろ〳〵しながら、そのどてらをそつとお房の上にかけて、

『あの剛情のあまめはどうしてゐる。』

と唐紙あけておきみの部屋に入つた。おきみは、馴れたもの、すや〳〵と寢たふりをしてゐると、

『剛情な奴、いゝ加減に此方のものになるが勝だぞ、いゝ相手が來た、明日あたり一遍に賣つ拂つてしまふべいかな。』

主人は熟し柿のようなグップを吐きながら二人の無事をみきわめ、安堵したやうに、ドタン〳〵と大音立てゝ楷子段を登つて二階にいつた。

お房は、吻と息をついたが、けふ一日の大膽の振舞から、こうした運命に陷つ

思へばいさゝおそろしや。
はろばろ四方を見わたせば
山また山のはてもなし
父はいづこにおはすらむ
かへりみすれどかげぞなき
をりしもあさより聲たてゝ
山賊あまたよせきたり
にぐる小女をひきさらへ
かたくその手をいましめぬ
あなおそろしとさけべども
人なき山のおくなれば
山彦ならで外にまた
こへむものもなかりけり。
山のがけぢを行めぐり
谷の下みちゆきかよひ
ともなはれつゝゆくほどに
あやしき家にぞいたりける
やれかゝりたる竹の垣
くづれがちなる苔の壁
あたりは木々にとざされて
夕日のかげもてりやらず。
内よりしれものいできたり
小女のすがた見つるより
めでたきえものと思ひけむ
ほてうち笑ふさまにくし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たことから、これからゆく末のことなど思つて、後悔と恐ろしさとにすゝり泣いた。ふと胸に浮ぶのは、故里の老いたる父と母であつた。『あゝどうしてゐるでせう、自分が居ない、家中さわぐ、あゝお母さんにすまない、家の仲の悪るいのもみんな私の誠の足りない爲であつた、あゝ早まつたことをした。どうぞ神さまお助け下さい。』とひとり胸の中でくり返すのであつた。

と、唐紙がスーッとあいて、お君の姿が現れた。

◎ほんとうの姉妹になつてちやうだい

二人は何んとも言はず互に抱き合つて泣いた。お君はやつれて顔は青白かつた

『お房さん今こわかつたでせう、あれが此處の悪い主人で、何でも私どもは、どこかへ賣られてしまふのださうですよ、私はもうとても助かりませぬが、あんたがお氣の毒で……』

『いえ、いえ、私よりもあんたが……私しさつきのあの人のいふことをきいてふるえました。けれど、たとひ死んでも私はあの男に身を穢されたり、賣られたりしませんわ、もし賣られてしまふときまれば、舌を嚙みきつて死んでしまひますわ。』

といつて、お房は涙をふきながら、お君の膝にもたれかゝつた。

『お房さん、私もさう思ひます、けれどどういふ縁でせう、こうして二人一所に

かれてまうけやしたりけむ
酒と肴と取りいでて
のめつくらひつするさまに
世にいふ鬼にこそならず。
頭とおぼしきものひとり
小女のもとにさしよりて
汝のこゝにさらはれて
きたるはふかき緣なり
今よりわれを夫として
この世のかぎり仕へてや。
わが家に久しく祕めおける
いとも妙なる小琴あり
幾千代かけてちぎりせむ
今日のむしろの喜びに
かなでてわれにきかせてよ
唄ひてわれをなぐさめよ。
かりにも辭まむその時は
劍の山にのぼらせて
針の林をわけさせて
からきうきめを見せやらむ
少女はいなとおもへども
いなみがたくや思ひけむ
なくなく小琴をひきよせて
しらべいでしぞあはれなる
風やこずゑをわたるらむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なつて、こうして姉妹のやうになるのはね、ね、あんた、是からは、ほんとうの姉妹になりませう、ね、生きるのも死ぬのも、一所よ、ね、いやなの？』

『いゝえいゝえ。』と頭を振りながら、

『ねえ、ほんと？』

『どうしてウソをいひませう。』

『あゝうれしい、お君さん!!』

『お房さん!!』

二人はまたもしつかと抱かれ合つて、同じ思ひに泣き合つた。

■一所に遁げませう

しばらく經つと、お房は急に思ひついたやうに、

『お君さん。』

と叫んだ。

『えゝ。』

『あのお願ひがございます、きいてくれますか。』

『何んですの？』

お君の聲はまだふるえてゐる。

『あの私どもはいつか賣られてしまふのでせう、さうすれば、もうどうすること

雁やみそらをゆくならむ
軒端を雨やすぎぬらむ
岸にや波の寄せくらむ。
いとも妙なるしらべには
かしこき神もまひやせむ
いともめでたき手ぶりには
ひそめる龍もをどるべし。
嵯峨野のおくにしらべけむ
想夫戀にはあられども
父のゆくへをしのぶなる
心はなにかはるべき。
峰のあらしか松風か
たづぬる人の琴の音が
ひとり木陰にたゝずみて
きゝ居し人やたれならむ
たづぬる人のつまの音と
いよゝ心にささりけむ
しらべの終る折しもあれ
斬りて入りしぞいさましき
刄のひかりにおそれけむ
きみのここにやおちにけむ
斬られて叫ぶものもあり
逐はれてにぐるものもあり
斬りて入りにしその人の
すがたはそれとわかれども

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

も出來ませんのね、だから今の中遁げることはできませんでせうか、一所にそつと遁げてくれませんか、一心になれば、神樣も助けて下さいます、みつかつたらその時のこと二人一所に……』

默つて聞いてゐたお君は、

『を丶お房さんほんとですの、うれしいわ、私先ん達てから寧そのこと殺されてもよいから遁げようと思ひましたが、一人では心が鈍ります、あなたと二人なら大丈夫ですわ、けれどお房さん私しもう疲れてしまつて駈けてゆくことも出來ませんわ、若しあの人が氣がついて來ますと……』

『お君さん、どうしてそんなこと、死ぬほどにお誓ひしたのぢやありませんか、ね、今すぐ遁げませう。』

『さう、うれしい、けれどきつと一所よ。』

二人はかたく手を握り合つた。

◎月夜の悲劇

髮をすき上げキリリと帶をしめ直し、裾を端折つて二人はそつと手をひきながら入口の戸の所に立つた。二階はシンとしてゐる。

お君は入口の棧をあけた。お房がそつと戸をひくと、スートとあいた、が外は闇と思ひの外、月夜でひるまのようだつた。二人は首尾克く表に出た。

身に纏ひし黒染の
ころもの袖と知られたり。
わなゝく少女の手をばとり
月のかけさす窓にきて
なおどろきそおどろきそ
われは汝の兄なるぞ。
いざこまやかに語りなむ
心をしづめてきゝねかし。
父のいかりにふれしより
こゝろにおもふことありて
東の都にのぼらむと
筑紫の海をば舟出しぬ。
あらき淡路のかぢまくら
かさねかさねて須磨明石
淡路の島をこぎめぐり
武庫の浦にぞはてにける。
こゝより陸路をたどりしに
ころはやよいの末なれば
並木のあたり風ふきて
衣のそでに花ぞちる。
都につきしその後は
たゞ文机によりゐつゝ
朝夕ならひし千々のふみ
はじめて人の道知りぬ。
父のめぐみを知るごとに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『さアお君さん、しつかりしてよ。』

お房はお君の手をひくようにして、はだしのまゝ早足でかけ出した。

心はあせつてゐるが、二人とも疲れと、氣後れがして、思ふように走れなかつた。澄みきつた大空には、まるい月が冴えて、遠くで火の廻りの拍子木の音がきこえる。

早く、早くもう少しよと、お房はお君を助けては馳けたが、お君は息をせき切つていかにも、苦しさうだつた。

と、一町も逃げたかと思ふ頃、誰か追ひかけるような氣配がした。若しやと振り返ると、月影に黑い一人の影――

『おゝお君さん』

『お房さんどうしませう。』

かよわい女の足、とても助からないと思つたお君は、急に元氣もぬけて、ばつたり大地に仆れてしまつた。氣丈なお房は、

『お君さん、早く〳〵もう少し……』

と抱を起し、肩に手をかけて、背負ふように、引摺るようにして、馳け始めた時には、もう追つ手の姿が目の前に迫つてゐた。お君はもう氣も力も拔けて、自分で自分を投げ出すように、ばつたりと往來に仆れてしまつた。そして

『お房さん私もう歩けません、あなただけ逃げて下さい。』

母のなさけを知るたびに
悲しきことのみおほかれば
泣きてその日をおくりけり
こゝろあらため仕へむと
ふる里さしてかへりしに
いくさのありしあとなれば
そのさびしさぞたゞならぬ
見わたす限りは野となりて
むかしのかげもあらしふく
尾花が袖もうせちりて
つゆの玉だれちりみだる。
こやわが家のあとならむ
その父母の遺骸ならむ
照らす夕日のかげうすく
ちまたの柳に鴉なく。
たのみすくなきわが身ぞと
思ひわぶればわぶるほど
浮世のことのみいとはれて
かの山寺にのがれけり。
朝夕讀經をすることに
はかなき事のみかこたれて
よみゆく文字の數よりも
しげきは袖のなみだなり。
昨夜そなたのたづねきて
かたる言葉をきゝしとき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

胸を抑へて苦しみながらいつた。
『いえいえ、あなた一人を置いてどうして遁げられませう、ね、もう少し元氣を出して。』
と、追つ手はもう目の前に迫つた。
『コラッ圖太いあま奴!!』
『お房さん、早く、ね早く遁げて下さい。』
『ぢや私も一所に、お君さん。』
とお房も往來に居直らうとすると、
『あなた、後生です、遁げて下さい、あなたが助かれば、私しもいつか助かります。早く遁げて交番にいつて下さい、私の爲に遁げて下さい、私を助けると思つて遁げて下さい。』
お君は拜むまねをした。
『いえいえ私はたとへ死なうとも……』
と言ひ寄らうとすると、お君はわざとお房を押しのけた。
『ぢやお君さん、心をしつかりと、ようござんすか、きつと／＼後からお助けしますよ、早まつたことをしませんように。』
身を切られるより辛い思ひを殘して、お房は後振り返り／＼髮をふりみだして驅け出した。
一町ばかりいつて振返つてみると、お君が主人に引きずられてゆく姿が小さく見えた。(是からます／＼面白くなります。)

わがうれしきはそもいかに
たゞにわが名を名のらむと
おもひしかどもしかすがに
名のりかねたる身のつらさ
名のるよりなほつらかりき
あかつきふかくわかれしを
道にてこそもやありなむと
汝を追ひきて今こゝに
汝をかくはたすけたり。
そなたを助けし上からは
心にのこることもなし
この後なにの面ありて
父にふたゝびまみえまし。
彼の世にありてまたばやと
いひもはてぬに腰がたな
ぬく手も見せず一すぢに
切らむとすなりわが腹を。
少女は見るより聲たてゝ
かたくその手をおさへつゝ
泣きつさけびつなぐさむる
こゝろの底やいかならむ。
をりしも空の霜しろく
夜半のあらしの音たえて
雲間きえゆく月かげに
かりがね遠くなきわたる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

梅の花ものがたり

新年御歌會の御題に因んで梅の花のお話しを致しませう。梅はほかの草木が寒さにしほれてゐる時に、霜を凌いで咲きますので、勇ましい花とほめたゝえられてゐますばかりでなく、暮からお正月に咲きますので、お目出度いものにたとへられてあります。

梅は竹と同じく東洋にばかりある植木で、外國にはありません、日本のは、もと支那から渡つて來たものゝようです。

梅には白梅、紅梅、八重、一重などいろ〳〵ありますが、みな、風情のあるもので、大和の月ケ瀬、山科の日野、高雄、攝津の岡本など東京の近くでは、武州の杉田、常陸の水戸なんぞが梅花の名所として知られてゐます。

水戸公園と杉田の梅は見ましたが「苔蒸した老木が多く、却々に美事でした然し梅や櫻は名所の花でなければ、風情がないといふものでなく、野に

積善の餘慶遠州岡田家

◈此の親にして此の子あり

積善の家には餘慶ありとは易經の本文にして、現實に之を證據立つるものは、今の樞密顧問官前の內務大臣であつた法學博士一木喜德郞氏と前文部大臣岡田良平氏との父君の家庭であらう、兩氏の父君は名を岡田良一郞と呼び縣會の議長ともなり又國會議員ともなられ德望最も深き人物であつたが、累代遠江國(靜岡縣)引佐郡倉眞村の豪農で掛川侯太田備中守領下の大庄屋を勤められたが、其の先代佐平次と云はるゝが、又非常に篤實慈仁の心に富みたる人で、深く二宮尊德翁の德教を崇信し、親ら笈を負ふて數年翁の膝下に隨身し歸來銳意以て報德法を鄉閭に布き、每年五十石づゝは更らに自分の所得となさずして別に之を倉庫に貯藏して一村公共の事業や慈善に供充せられたものであつた、其の子たる良一郞氏に至るも猶ほ能く遺志を繼續せしのみならず、進んで私學冀北舍と云ふを興して地方

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

生ふる自然のまゝの姿が却つて床しいものです。
その中でも深山の中の三軒家の日當りのよい平和な里にチラホラと咲いて、側へいつてみると椽側に子供が日向ぼくりしてゐる、大根が弔して影が障子に映つてゐる、鳥が來る、影が射す、小虻の唸りが聞える――といふように、しづかな里邊に咲いてゐる所が、よいものです。景色は一つは心の持ちよう、目のつけどころ、高雄の紅葉でなくとも、奥山の雜木林の紅葉に、風流がたのしまれますと同じことです。
どちらかと言へば、梅は野の花です、それから桃も。

回

梅には三百餘色あつて、實のなるのと、ならぬのと二色あります、盆栽としても珍重されますし、又櫛やいろ／＼の器にも使用されます。梅干は農家になくてならぬもので、土用に梅を干すとは、年中行事の一つとなつてゐましたが、近年だん／＼すたつて來ました。是は主もに飢饉や旅の用意として作つたものと思はれます、毎日一つぶづゝ食べますと、晝間でも空の星が見えるといふ位利き目があるさうです、然しなか／＼高くなつて、小さいのが一つぶ一錢ほど致します。生梅は身體の爲によくありませんので食べ過ぎてはいけません、梅のなる頃の雨を梅雨といふことは、皆樣の御存知の通りであります。

靑年に資し德教を經とし勤儉を緯として之に實利を體得し以て一種の教養を施し、或は荒野蕪林に灌漑を與へて美田良圃と化せしめし如き、其の國家に利益となりしの功績は擧げて算ふ可らざる程であつた、而かも自ら奉ずると極めて儉素愛兒の衣服にすら嘗て絹物を纒はしめしことがなかつた、夫人も又賢女にして能く夫君の心事を領得し春播秋穫鎌を提つて曉の星を戴き、鍬を荷ふて夕月の影を踏みて儀範を全村の婦女に示されしかば、中農と云はず細農と云はず自然に之に感孚せられて何れも餘財あらざるはなきに至り、夜も戶を鎖さざるも盜賊の心配もなければ、道に物を遺失するも拾はるゝの憂ひなき程にまでの美風良俗を致し、人をして堯舜の時代も斯くにやと思はしむるに至つたのである、嗚呼喜德耶良平兩氏は、斯かる家庭に薫陶せられたのである、動亂的時代なりせばイザ知らず、又藩閥のよすがありせばイザ知らざるも、斯かる僻村の一平民の家門として兄弟同時に大正の世に顯要の冠冕を得る誠に目出度限りにこそある、豈に夫れ積善の餘慶とや謂つ可けれ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

回

梅の花の効用は、材木にしたり、器具にしたり食物にしたりする外に、精神上の方面に澤山あることは、申すまでもない。國民性と深い緣のある花であることは、梅の花を詠んだ歌や俳句の多いことでも知られよう。故事として名高いのは、菅原道眞が時平の讒言にかゝつて九州へ落ちてゆくとき、軒端の梅に別れを惜んで

東風吹かば匂ひおこせよ梅の花
　あるじなしとて春な忘れそ

と詠んだことであります、今でも梅干の種子を天神樣といつてゐます。

また三才女として知られてゐる小式部內侍が、「時の帝の御思召に依つて、庭前の梅を献上しました時、丁度その梅に鶯が巣ごもりしてゐました。帝の思召は勿體ないが、鶯が氣の毒である。私の宿はどうしましたともし聞かれたらば、「何と答へませうと、」流石に女の歌よみであります。すぐと短冊に

勅なればいともかしこし鶯の
　宿はと問はば如何にこたへむ

と一首歌をよんで、枝に結んで置きますと、帝は式部の優しい心と和歌の才を御ほめ遊ばしたと伺ひます、風流な物語りです。

又前九年の役に、阿部貞任が捕へられたとき、野蠻の東北武士は風流は

處女の遊戲運動に就て

柏村玉溪

口

近來處女の遊戲運動の進歩したのは甚だ喜ばしい事であります、暫く前までは青年のみに行はれていた遊戲運動も、今は處女にも專ら行はれる樣になつて來ました、テニスと云ひ、デッドボールと云ひ、種々の遊戲運動いと盛んであります、諺にも始終働いてゐて少しも遊ばなければ子供は馬鹿になると云はれて居ます、處女に於ても、遊戲運動は非常に必要なものであります、特に家の內で二六時中仕事して居る者には、益々その必要を感ずるのであります、遊戲運動は決して時間の損失ではありません、腕と胸とを發達させるは大切であります。我々の普通の仕事は大低腕と胸とを大きくするよりも。却つて少さくせしむる傾きがあるものであります。

口

遊戲運動は唯人を健全にするばかりではなく、仕事を爲す元氣を與へるものであります又身體上の健康のみではなく、道德上の健康をも與へるのであります。そうしてこの賜物は書物を讀んで得らるゝのではなく、又他人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

心得まいと高をくゝつて梅の一枝を示し

この花は何んといふか

ときゝますと、すぐさま

わが國の梅の花とは思へども

大宮人は何んといふらむ

私共は梅と申すが、あなた方はなんといふか知らぬといふことなのです。聞いた人は、恥ぢ入つたと申します。

歌によまれた香ばしい梅の花を二三本を次に――

春の夜の闇はあやなし梅の花
色こそ見えね香やはかくるゝ(凡河内躬恒)

散りのつと垣根がくれの梅が枝に
鶯啼きつ春の夕ぐれ(藤原長家)

君ならで誰にか見せん梅の花
色をも香をも知る人ぞ知る(紀友則)

俳句では

梅一輪一輪づゝのあたゝかさ
梅が香にのつと日の出る山路かな
枯れたかと思ふたにさて梅の花

から數はることの出來ぬものであります。唯遊戯運動中自然に得らるゝものであります、斯の如く遊戯運動は必要でありますが、これが過度になつたり、又は職業になつてはその効果はないのであります。然し悲しいことには世間にはそれが澤山あるのであります

□

或る人は、處女の遊戯運動はお轉婆にて殊に衣服などを損する事甚だしければ不經濟であるからかゝる事は止めた方がいゝと云ふ者もあります、そうです。人によりてはお轉婆とも見られるかも知れません。然し處女なれば却つて無邪氣で其の活潑なるところは愛すべきものでありませう、又不經濟もあるか知れませんが、萬事一利一害の伴ふはまぬかれ難き事であります。若しか昔の樣に處女は深窓に人となり、洸き風にもあたらず、靜かに室内に過したならば、衣服などは損ふことはありますまいが、健康上に及ぼす害は非常なものであります。身體が不健康で藥餌のみに親むならば、不愉快の日のみ送り、且つ費用又多く入りて、不經濟の甚しいものであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○鄙ぶり

本紙は田舍趣味を鼓吹すべく前號より其が慫慂を試みにしに意外の歡迎を得大方の寄稿を辱ふせしを多となしぬ、然れども紙數に限りあるが爲め中に就き、其の秀逸なるもののみを撰抄し又天地人の三才者には心ばかりの贈賞をなし以て一層の寄稿を請ひぬるにぞある。

萬歳の太夫は酒に醉ひ倒れ才藏背中におぶひてぞ行く　勝女

働くに追いつく暇はなしの木の露吸ふ蜂を見るにつけても　芳子

別嬪が女巡査に道問えば劍もホロ、の御挨拶なり　同

貝拾ふ處女の姿は凛々しくもカイガイ敷ぞ粧ひにけり　品

ハイカラの娘プカ〳〵煙草吸ひ見て居る中にハイガラとなる　道子

ピヨツトコと外道の踊る御神樂を見とれて居るは何處のお龜か　小春

秋の田の刈穗の稻を遠慮なくモリ〳〵喰ふは馬にぞありけり　吉子

ハイカラが大道臼に茶の袴肩で風切る樣のおかしさ　同

盗賊が逃げたと聞てホッと息女巡査は急に强がる　同

細々と紬ぐ工女の手業こそ御國を繫ぐ寶にぞある　安子

茶の湯と乃木夫人

乃木夫人は近代烈婦の鏡にして故將軍の明治天皇に殉死せらるや、夫人亦名譽の刄に伏せられし事共は芻豎牧童すら知らざるものはなかる可けれ、而して此の夫人は鹿兒島士族の武門に生れて乃木故大將の嚴肅なる家庭を料理せられ、現に赤阪の邸住に遺留せらるゝ遺物の草々に鑑みるも茶の湯や生花など云ふ優長の業にも似たらんものには必ずや心を留められざりしものなるべく思ひしが、事實は全く反對であつた、曾て親しく同邸へ出入し痛く同夫人の愛顧を得たりにし某將校夫人に對して斯くなん訓誨せられたとの事である。

「抑も男子方と云はず將た婦女子と云はず此の世の中に立ちてんには是非に沈着と云ふ事が何より以て大切でありまする、其れ故男子方は或は禪學に由りて心を丹田に落行くべきの工夫もせられたり、又銃獵釣魚や弓術馬術などに日頃世務の鬱懷を忘れらるべき手段もあることにて、昔時の英雄豪傑が晨あつて夕べを計り難れにし戰亂の世の中にてすら茶の湯にあこがれ玉ひしものは、此の沈着の心を修養せられたものに外ならぬのでありまする

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

渾身の勇を揮つて太根曳き大道臼を地にぞ埋づめる　哲女

影法師大きな方が母様よ白髪頭も黒くこそ見ゆ　操子

冬がれのをちばを敷きて落語會笑みつゝ立てり薪荷ひて　康子

呼び出しの電話に下駄を蹴つ飛ばしア、モシ々々の聲もさはがし　みさほ

草屋にも樂あり一家無事な顏鷄までが結構と鳴く　清子

人

動く人動かす人をおしべなて皆働の一字なりけり　圓海尼

地

藪入のお鍋の顏を見違える流石に京は水處なり　拾吉

天

いつ見ても眞ッ黒々の濁り江を誰が名つけゝん隅田川とは　春子

軸

汲む水に落花の誘ふ小袖かな姉妹にて蝶々を逐ふ　選者

□　これのお背戸のちら〳〵雪に
誰がつけたか下駄の跡

婦女子は男子方よりも一層此の沈着の心がなくてはなりませぬ、物見遊山も折に觸れては鬱積した氣分を散するには能き功能もあろではあらうが、婦女子の外出の餘りに繁々なるは家庭の爲めには决して善ひものではありませぬ、琴瑟和合と云はるゝに由り音樂の趣味は一通り心得へ置くのは婦女子のたしなみではありまするが、物の音色は厳粛の家庭を維持せんには餘りに善いものとのみに限りませぬ場合に由りては却て浮華の心をソヽり沈着の心を破ると云ふ結果をも來す事がないとも云はれませぬ、去ればなはが最も適當かと申して見れば其れこそ茶湯であります、生花も又此の茶の湯の業には付き纒つたもので、家庭の仕事にいそしみにし其の餘暇々々には淸き若者の一椀にあらゆる虚榮の夢やら種々氣苦勞を洗ひ去りて沈着の心養ふのは婦女子に取りては何より簡便の修養法でありまする、然し其が爲めに價の高き器物什具を物數寄するのは善からぬ事で、茶の湯と云ふとても何も別に改まつた儀容を用ゆるには及びませぬ我が家に有り觸れたる鐵瓶なれ、湯飲茶椀なりにて事は足るのでありまする」と懇々述べられたとの事であるが、誠に好個の訓戒にこそ覺ゆるになん。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

全國處女會 婦人會 主婦會 一覽（其の四）

三重縣

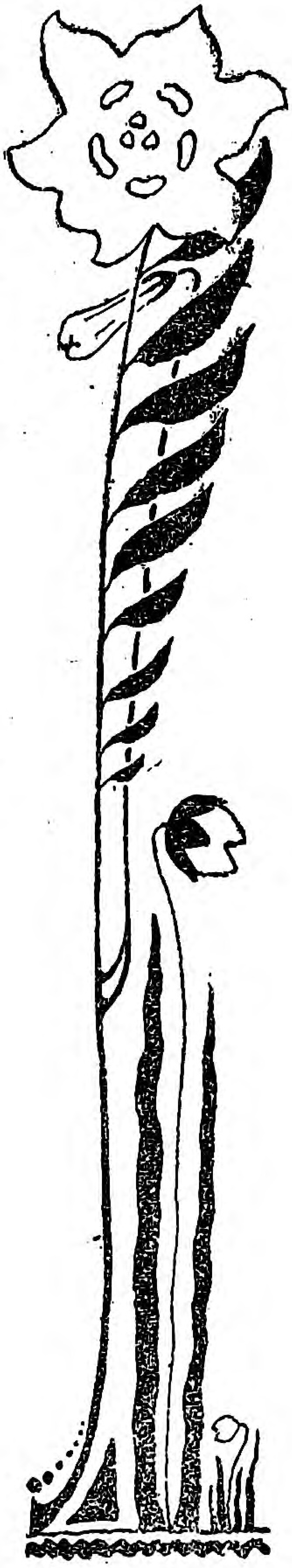
名稱	創立年月	會員數	會長氏名
度會郡神社町處女會	三、四	一六二	鳥海辰忠
同 二見町今一色處女會	四二、一二	八四	大西八十八
同 田丸町處女會	五、二	七三	八重江豐吉
同 宮本村第一學區處女會	三、七	四〇	山上熊吉
同 沼木村上野處女會	四四、九	一〇一	中西梅吉
同 沼木村矢持處女會	六	四八	中村兵右衛門
同 濵鄕村處女會	不明	一三八	牛場清次郎
同 北濵村東大淀柏村處女會	四二、二	八五	上井三次郎
同 小俣處女會	四二、一	三四二	吉村延吉
同 有田村處女會	三	一四二	北岡駒吉
同 東外城田村處女會	四、一	一七四	森井喜八郎
同 下外城田村處女會	四四、二	一二五	松田茂雄
同 內城田村處女會	不明	二〇二	中津勝藏
同 中川村處女會	四一、四	一二三	北村粂吉
同 瀧原村阿曾處女會	四、二	九二	村田德輔
同 島津村西處女會	四〇	二〇	村田金次郎
同 島津村東處女會	四三、二	七〇	福井太男
同 島津村島津處女會	四一、二	一一九	加藤梅四郎
同 吉津村河內處女會	不明	二八	山口安市
同 鵜倉村東宮處女會	四一、一一	六二	池口義致
同 鵜倉村鵜倉處女會	四一、一一	六九	小松茂平
同 中島村阿曾浦處女會	元、二	一三五	梅田重雄
同 一之瀨村處女會	四四、一〇	六四	西野定之助
同 小川鄕村處女會	二、一一	四〇	掛橋久平
同 三重縣斯民會穗原村支會處女會	二、一一	七七	谷崎興之助
同 南海村處女會	四二、	二三四	河口楠次郎
同 五ヶ所村處女會	四二、	一六二	廣安太郎
同 宿田曾口處女會	四二、	一六九	加藤惣三郎
同 三重縣斯民會神厚村支會處女會	四四、四	七〇	稻田恒太郎
多氣郡東黑部村處女會	四二、一〇	八四	淺沼富三郎
同 下御糸村處女會	四四、一〇	一〇三	三宅平藏
同 大淀村處女會	四四、一〇	八七	岡本德松
同 上御糸村處女會	七、三	九八	西野利市郎
同 明星村明星區處女會	四四、二	七八	四重治郎
同 明星村修正區處女會	四三、一	五〇	湖田龜藏
同 齋宮村處女會	二、二	一六八	柳谷定次郎
同 相可村處女會	四、一	一九〇	藤原彌次郎
同 西外城田村處女會	四二、一二	八一	中森幸太郎
同 佐倉村處女會	四三、二	一七一	川邊增藏
同 津田村處女會	四三、一二	八七	逸保三
同 丹生村處女會	七、二	四九	辻平次郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

同	川添村處女會	元、三	八〇	松田文次郎
同	三瀬谷村處女會	元、一二	二二一	神谷倫五郎
同	荻原村處女會	三、一二	一八〇	大屋仲助
同	領内村小瀧處女會	二、二	三九	中田捨藏
同	同南處女會	二、二	二五	池崎いま
同	檜原處女會	六、四	一八	大西金藏
同	大杉處女會	七、三	一一	淺井長八
同	文豆處女會	六、二	一六	木下寅吉
三重郡	日永村處女會	四四、三	二三五	八島治平司
同	鹽濱村處女會	四四、三	一八一	長谷川重太郎
同	楠村處女會	四四、三	二二〇	堤要藏
同	後原田村處女會	三、一〇	一三八	中島松之亟
同	内部村處女會	二、三	八七	永田精一郎
同	小山田村處女會	四三、三	一六〇	長田信吉
同	名澤村處女會	五、四	一三五	森忠四郎
同	四郷村處女會	四三、三	一五〇	川島彌
同	常磐村處女會	四四、一	九五	中村まさ
同	川島村處女會	四四、四	一一七	柳川光太郎
同	神前村處女會	四三、一二	一六〇	村山榮次郎
同	櫻村處女會	四三、二	一二二	小村繁太郎
同	藏野村處女會	四三、三	九五	福村直衛
同	千種村處女會	四三、三	一二〇	水越末松
同	鵜川原村處女會	四四、四	一二九	森爲吉
同	縣村處女會	四、一二	一〇五	水村東二
同	三重村處女會	三、三	一六六	西脇基之助
同	海藏村處女會	四四、二	一〇二	辻吉次郎
同	羽津村處女會	四四、二	一八〇	富永四郎
同	富田町處女會	四四、二	二三〇	橋本謙吉
同	富州村處女會	四四、三	二八一	加藤正家
同	川城村處女會	四四、一	一八〇	寺本由松
同	朝日村處女會	四三、三	一二八	山下岩松
同	大矢知村處女會	四四、一〇	一六五	鎌田常吉
同	八郷村處女會	四四、四	二二〇	島田豊太郎
同	下野村處女會	四四、二	六五	下田亭三
同	保口村處女會	三、三	九八	南川國太郎
同	竹永村處女會	四四、四	九六	太田貞
同	朝上村處女會	四四、四	一八五	櫻井邦太郎
一志郡	立成區處女會	四二、一	一三三	上野三郎
同	戸木村處女會	四二、九	四三	平林喜久三
同	七栗村處女會	四、一〇	七三	稻垣甚藏
同	稻葉村處女會	六、二	六一	奥田歳三郎
同	大三村處女會	六、四	七七	上田一郎
同	川口村處女會	七、二	一四五	藤田才太
同	倭村處女會	二、二	六七	行岡惣次郎
同	境村處女會	六、二	二五	岡田鹿次郎
同	八ツ山村淑德會	四五、三	一九五	須田市三郎
同	宮城村處女會	六、四	七四	岩脇勘五郎
同	竹原村處女會	七、一	五二	瀧川彦之亟
同	太郎生村處女會	六、四	九二	日置重太郎
同	八幡村川上處女會	六、五	二五	中井廣
同	多氣村處女會	七、三	四一	結城實之助
同	下立川村處女會	六、二	四五	土方近太郎
同	宇氣鄉村處女會	五、一一	八五	近戸清太郎
同	中郷村處女會	四四、一二	六九	森川藤吉
同	豐地村處女會	五、八	八六	近藤憲夫
同	川合村處女會	六、一一	八六	大谷芳郎
同	中川村處女會	六、一	四七	豐田樋次郎
同	豐田村處女會	七、二	七八	鈴木庄十郎
同	阿坂村處女會	四三、七	九二	谷口秀郎
同	米ノ庄村處女會	六、二	一〇七	中西貞助
同	松ケ崎村處女會	四、七	六五	早川辰太郎
同	天白村處女會	四二、五	七五	岡田正彰
同	鵤村處女會	四一、二	九一	川村直三
同	小野江村處女會	四三、二	七二	曾根定吉
同	雲出村處女會	七、四	一〇四	杉島房之助
同	高茶屋村處女會	四二、四	七〇	奥山千代松
同	榊原村處女會	七、六	七〇	前田源藏
同	伊勢地村處女會	七、六	五〇	岸野又次藏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

生活改善展覽會をみるの記



一　不自然の貧乏

世の中が進歩すれば、人の暮らしは樂になりさうなものですが、あべこべで、世間は段々暮らしにくゝなり、お金持と貧乏人との境が大きくハッキリとして來ます。是では大變と政府では、社會政策といつて、お金持と貧乏人とをなるべく近づけ、仲よくさせようと骨を折つて居ります。昔は座して食へば山も空しなどゝいひましたが、此の節のお金持の中には、座して食つてその上に自動車で遊び廻つて居つて其でもムクムク肥える人が多いのです。又稼ぐに追ひつく貧乏なしなどゝ、昔の人は敎へてゐましたが、此の節では、

▽**稼げど追ひつく貧乏あり**

で、いくら働いても貧乏神に攻められ困つてゐる人が多いのです。不自然のお金持と不自然の貧乏とを早くなくせたいものです。記者の如きも、どちらかと云へば、不自然の貧乏人です。

二　世間や外聞が何です

然し其には、めい〳〵の働きを一層高めると共に、その日〳〵の暮らし方を約めることが肝心です。むだ使ひをしないといふようなことばかりでなく、生活の

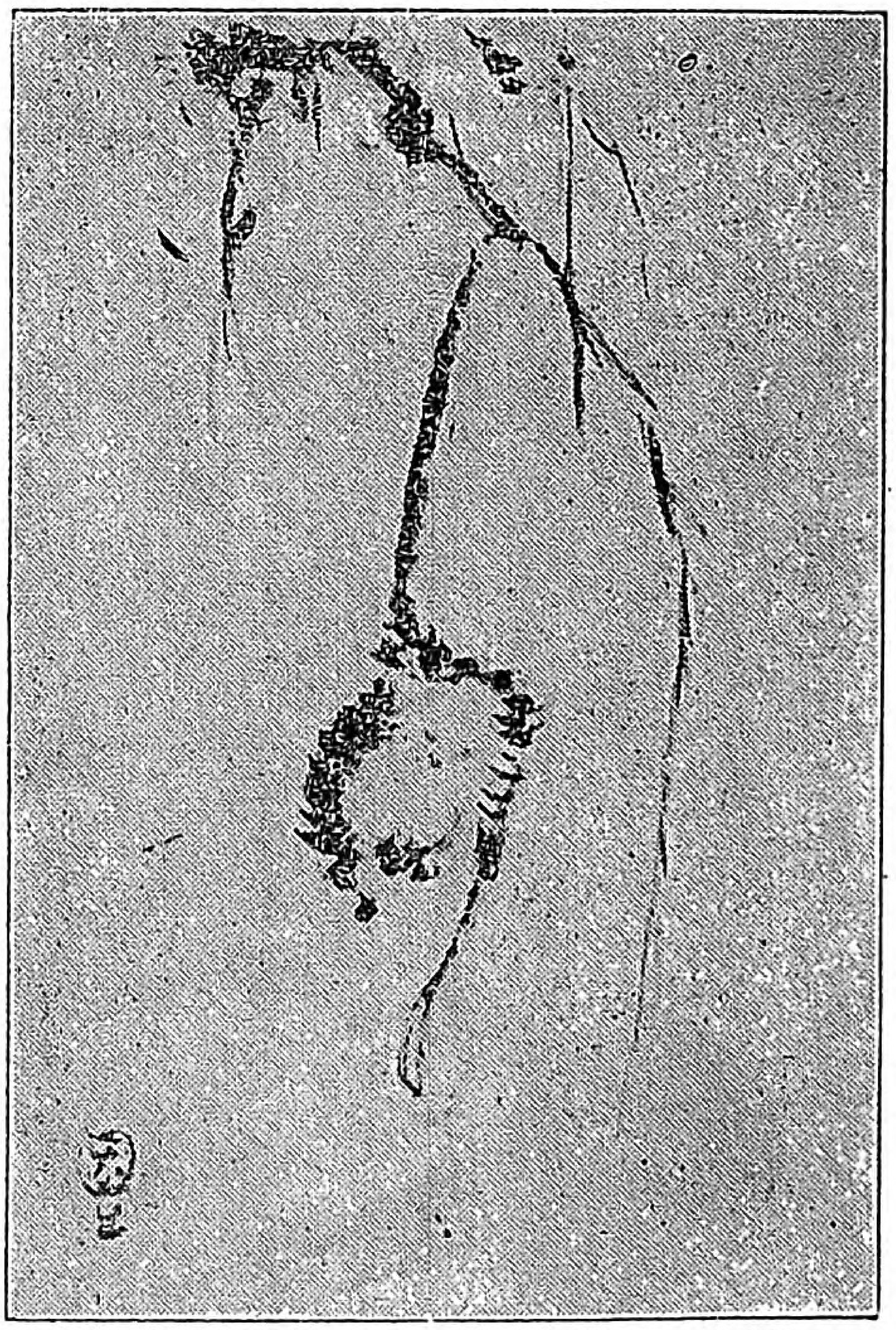
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

根本を改良してゆくことが大切です。時勢は合はぬ古い習慣やしきたりなんぞ、この際ドシ／＼やめるもよければ、改良するもよい。世間體とか、外聞とかいふてゐる世の中ではない。世間の爲に外聞をよくする爲に、貧乏して困つてゐるといふのが、今の日本の一般です。眞實の生活をしたい。

　かういふ目的でこんど文部省の生活改良展覽會が、お茶の水の敎育博物館で十二月一日から一月三十日まで開かれることになりました。

　出品物は、各官廳を首めとして、女學校を主なるものとし、商店からも澤山出てゐました。飲食物、被服、住居、儀禮社交、公德、家庭內職といふ樣に區分して二階と下と一杯に陳列され、みな時節柄適切なものばかりでした。

月下の猿



あまの筆

　食物は、飾りや體裁を省いて、滋養分の多いものをたべるといふのが、手間からいつても、身體の爲からいても自然です。さういふ食物はどうしてこしらへるかといふようなことが模型や圖表で出て居りました。代用食の研究も盛んなものでした。

三　厄介な着物

　日本人の着物位面倒なものはないと言はれてゐます、殊に女の着物は問題になつてゐます。尤も今までの町の女は、人形の樣に家に居たものだから、ヒラ／＼した着物を澤山もつてゐて、其を年中箪笥から出したり、入れたり、虫干したり、火事の心配をしたりしてゐたものですが、是からは、そんな人形奥さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ん、人形の孃さんは通用しません。割引電車はおろか笊をかゝへて大根買ひにゆかねばなりません。縮緬づくめの着物に、たゝみつきの下駄で何んとしませう。この着物が邪魔した爲に、日本の女を不活潑にしてしまつたのです。女が惡いのではなく、着物に罪がある。仍で着物の改良說が起りました。

着物はもと〳〵寒暑を凌ぎ、働きよいといふのが目的で、體裁は二の次であるべきです。展覽會には、子供や女學生の改良服は出てゐましたが、娘さんや奥さんの改良着物は出てゐない樣でした。其丈大人の女の着物はむづかしいのです。

ひとつ處女會が改良服を考案して天下に發表しようではありませんか。今までは、町の奥さんや娘さんの流行をまねて嬉しがつてゐました、こんどは、田舎が質素な流行物を考へ出し、其を町の奥さん連にまねさせるのです。いや今にきつとさうなります。町の女の方は、もうこの節暮らしに眼をくぼませてゐます。着物なんかに氣を配つてはゐられなくなりました。儉約は人の爲でなく、自分の爲です。

女學生の改良服では山脇女學校のが一番評判がよかつたようでした。

四　住居の改良

東京には住む家がなくて大弱り、庭を飾るとか、植木を植ゑるとかいふのは、お金持ばかり、二間か三間の貸家を搜すにも半年位かゝります。蝸斗でさへも、家を持つてゐるのに、さりとは、なさけないが、致し方がない。乃で内務省や東京市では、こんど安い家を澤山こしらへて勤め人などに貸せようといふことになりました。然し將來は、住宅の會社が出來るに定つてゐます。大きな建物の中に、小さな部屋をいくつもこしらへ、其を貸しつけ、料金をとつて、賄でもすればお湯も焚く、出るときは鍵をかけ、夕方歸つて來てから排ける。

▽ひどり者マツチと鍵を持つて出る△

といふ川柳があるが、今は電燈をひねれば、明るく

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なるから、マッチは入りません。五階か六階の大建物で、上には屋上庭園をこしらへ、ブランコもあれば、テニスコートも出來る。娯樂室にはピアノ、オルガンもあるといふ樣にするのです。

家の中の造作も改良する點が澤山あります。日本の流し元は暗く狹くきたなく衞生的でありません、あすこを明るく廣く、尙出來るならば、立つてゐてお料理が出來るようにしたい。日本の女は座りつけてゐるから洗濯でも料理でも何でも座つてする。腰を抑へつけるから丈が伸びない。身體の爲にもよくないのです。竈や、燃料抔も改良する餘地があります。

五　花嫁の賄賂

儀式、社交といふ所には、主にお嫁入の支度が出てゐます。このお嫁入りは女一代の晴の儀式ですから鄭重に莊嚴にすべきものでありますが、莊嚴と支度とは別です。今までのように、簞笥長持にギッシリと着物をつみ込み、花嫁さんをピカ〳〵着飾らして、大勢お伴して先方へ乘り込み、飮んだり食つたり大騷をしたりすることは、野蠻です。婚禮費にどこの國が一番お金を使ふかといふと、支那で其から日本です。支那は收入の三十倍を支度にかけます。日本は二十五倍、每月三十圓の月給取が、九百圓を嫁入りにかけるのが支那七百圓かけるのが日本です。英吉利とか佛蘭西では、二倍か三倍です。野蠻國程嫁入支度を仰山にするといふことをよく考へて下さい。

お嫁入りするのは本人で、着物の婚禮ではありません。本人に人格が具はり、働く力がみち〳〵てゐれば着がえの着物の二三枚も持參すれば其で結構「裸でございますが、身體は出來てゐます」でよろしい。尤も着物や簞笥を澤山もつてゆく人は、みんな身體の弱々しい、勞働の出來ない、意志の薄弱な、肺病やみのような女に限ります。自分の腕で稼げないので、困つた時の用意に、着物をもつてゆくのです。又わがまゝに育つたので姑の機嫌をとることが出來ないので、着物で機嫌をとるのです。つまり姑さんへの賄賂です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

志摩の海女をごらんなさい磯桶一つが婚禮の支度です。この磯桶は粗末だが、この桶を使ふ腕を見見ろといふ誇がある。花嫁さんの指環は高いが、賣つてしまへば、あとにのこるのは、白魚の樣な指ばかり、いや話しが逸れましたが、つまり、これからは形式の結婚をよして、實質の結婚をして欲しい。御馳走も餘計にする必要はない、お蕎麥一杯でもよい、お汁粉でもよろしい。ふだんのまゝの着物でよろしい、お白粉もどうでもよい。いくらお白粉をつけても、紅をつけても離縁になる女があるでないか。其の代り夫婦共に誓ひを立てるのです。友達や親類をよんで誓ひを立てるのです。着物や肩書との結婚は大きらいです。愛と人格との結合！　是でなくてはならん。ひとつ青年會と處女會で結婚の模範を示して下さい。

嘉悦理事の一千圓の婚禮支度も評判ですが、私たち貧乏人は、もつと〳〵安くして欲しい。

『申の年』の迷信を嗤ふ

三輪田元道氏(談)

大正の今日に、未だ申の年だの酉の年だのと云つて居る氣が知れない未だ酷いのは來年は申の年だからとて結婚する人々が氣にしてゐると云ふ事等を聞きました。一體申の年が嫌はれるのは申は去るだから嫁入り等には縁起が悪いと云ひますが、之は何等明確な根據に立つたものでなく從つて何の價値もない事です。一體干支等と云ふのは十二と云ふ數を覺え易くする爲に動物を好い加減に配置したので、何等の意味もなく、子丑と云はずに蚊、蠅、蚤等と數へて行つても差つかへないのです。干支が成立つてからは、其の名の動物の習性、牛ならば遲いとか虎はきついとか或は動物の發音鳥の年は「取り」だから嫁取りには大吉である等と云ふ類の次には動物の連想、例へば鼠は大黒樣と一緒に置かれるからお金持ちになる等と云ふ誠に愚にもつかぬ事です。それで申の年が人々に嫌はれるのは「去る」と云ふ意味に通ずるからです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

可愛さうなお房さん

……女學生のすゝり泣く聲……

本誌に連載してゐます『都にあこがれて』の活動寫眞が出來上つてお茶の水の生活改善展覽會で毎日映寫してゐます。

何んといつても、お房さんが問題となつてゐます。あこがれ心の爲に家出するのは、お房さんが惡るいのですが、その裏面には、家庭の不和――つまり嫂との仲のわるかつたこと――がありますので、同情はお房さんの一身にあつまり、みんな氣の毒だ、可愛さうだと評判です。

東京ステーションあたりは、ほんとうに上出來、それから本所の叔父をたづねてゆく途中ふと白木屋呉服店の前を通ると、折よくか折あしくか、

◇婚禮着物が飾つて◇

あるので、心配な中にも、みとれる所もよく出來ました。それから思ひ餘つて口入屋の暖簾をくゞる所、それから、惡人の家につれこまれ、故里を思ひ出す所、ボーツと老父母の稻こき姿が現はれます。お房の頰からは涙がこぼれます。女學生なんぞは此處で泣いてしまひます。

それからまだ悲しい所や、面白い場面が澤山ありますが、話してしまふと本誌のつゞきものが面白くなくなりますので、あとのおたのしみとしませう。

十二月五日には佛敎婦人青年會員數百名が館內を參觀し、棚橋館長の講話の後で「都にあこがれて」をみましたが、其の時丁度私もいつてゐましたが、お房に同情して、みんな涙を流し、惡人の家を遁け、追つ手につかまる所なんぞ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

◇あゝ早く、早く、早く遁げて◇

と揃つていふ聲が洩れました。會員の妹さんでせう六つか七つ位な子が『今にお房が出るよ、それ出た、あれよ』と話し合つてゐるのも可愛らしい。

とにかく、親の爲に、一つには地方の娘を戒める爲に活動寫眞をとつて下すつたのですから、實にこの寫眞に生命があるのです。この寫眞を早く皆樣の目の前にごらんに入れたく思ひます。第三卷に少し不出來なところがありますので、今寫し直してゐます。

廣島縣沼隈郡山波村及千年村の處女會の活動寫眞の場面は、敬老會、教育召集、備後表織り、學藝會、節米料理、亡友追弔、運動會合同體操など。殊に敬老會は評判がよく、地方の娘は感心だよく働く上に優しいといつてある華族樣の奥さまが、御主人と御一所にほめて話してゐらつしやつた。私は私がほめられた樣に嬉しかつた。

三重縣荅志島の海女の生活は十一月についたものですから寒くてとれずに、他のところをとつて來ました、來年の夏にまたいつて海女處女會をうつして來ることになつてゐます。

靜岡縣の庵原郡庵原村の活動寫眞は理想郷といふ題でうつして居ります、蜜柑をとるところが美麗です。寫眞は杉山部落をうつしたのです、この部落は報德を以て名高く、身代のよいことで、日本でも名高くあります。

生活展に活躍する「田舍娘」眞の活動寫眞
入場毎日幾千人

全都婦人の注目の的となつて居るお茶ノ水教育博物館の生活改善展覽會は師走の忙しい中に開會され毎日幾千の入場者を送迎してゐる中橋文相、大倉男、櫻田助作氏、鴨居工學博士、小池國三氏、東郷安男等の如きは夫人同伴で入場したのを記錄に止めてある高工講師カツドロフ夫人女子青年會のミスカフマンも熱心な觀覽者で埼玉縣北足立郡では一郡の女教員が十二日揃つて見學に來ることになつて居り貯金局の女事務員鐵道院の一部淺草の佛教青年會等も既に團體見學の申込みがあると聞いた規定の催し物は每土曜の講演會及び活動寫眞每日曜の活動寫眞每火曜の外米に關する講演炊き方及び試食每水曜及木曜の內職實演會等である日に一回位映寫を試みる活動寫眞は此會評判の催し物である其の中でも「都に憧憬れて」は田舍娘が都會に淪落せんとする徑路を天野處女會理事が仕組んだもの役者は女優ならぬみかど商會の牧野氏令孃が姉妹で大膽熱心に活動した光景を其儘に現はしたもので觀客を泣かせるものである此の外貯金局で仕組んだ「山の兄弟」「合點德兵衛」や「水難救濟」「補正行」又はユニヴアーサル會社特製のものも廿卷あると云ふ。(國民新聞より)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女實話

吾が家の爲に

二瓶一次

お兄様 ―九・一・一―

都にて　しげ子

新らしい年が參りました。お兄様、お目出たう存じます。希望に滿ちた初日が、新らしく張り換へた障子に植込の松ヶ枝を映しまして、眞當に生甲斐のあるやうな朝でございます。今日から五日間、お邸の女中達は交替に休暇が出ましたので、お勤番だけが居殘り、あとはみんな淺草の方へ遊びに出かけました。私も誘はれましたので御座いましたが、折角の元旦を無茶に過すが勿體無い氣持がせられますので、その方はお斷りを致しまして獨いま二階の六疊にお座りをいたしました。お兄様私は今日のこの日を、お兄様に手紙を書かうと考へたので御座いました。私はありだけの心で書き續けて行きます。どうぞお兄様も、全體の心でお讀みなすつて下さいまし。

お兄様。私が東京へ參りましたことに就いては大體お父様の方から申上げたことゝ存じますが、私からも是非申上げなければなりません。何にもかも御承知のお兄様に、斯の様なくだ〳〵しい手紙は不必要かも知れませんが、どうぞ小さな妹が眞實の聲だと御思召して、御勉強のお邪魔をお許し下さいまし。

あゝお兄様、私も十七になりました。昔の物語に見えるお武士の奥様で、十七八のお年若にも係らず、家のため夫のために身を捨て些しも惡びれた樣子もなされなかつた女丈夫も二三は聞知つて居ります。私ももう十七の處女、年齢相應の考が無ければならぬと考へて居ります。

いま迄は暖かい父母の膝下に、貧しい生活とはいひ乍ら、何一つ浮世の波風に當らずに過してまゐりました我儘者、今更に他人の飯の悲しさを滲々と味ひ知つて、本當に今迄の自分が勿體なう思はれてなりません。「苦しみは人間の砥石だ。若い中にみつしりと苦しんでおきなさい。苦しみの中から鍛へ上げた者でなければ光が鈍い」と、よく岡村先生が仰言いました。今になつて私はそれを眞實の事だと考へます。

お兄様、私も東京に參りましてもう五十日を過しました。汽車を上野に下りて、あのめぐるましい眞只中に自分の姿を見出した時、私はまあ什仕様かと思ひました。出迎ひに出て下すつた叔母様に連られて、その夜は[illegible]母様の御宅――お宅などと謂へばお兄様には什麼お家かと善い方へ御想像で御座いませう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

が、間口が九尺、奥行が二間半、その中に便所もお臺所も流もともございますのです。家内が水入らずの四人、私は三疊の間に倹ちやんと同寢しました。

その翌日の朝、私はお母樣に連れられてこのお邸に上りました。お兄樣、目を瞑つて靜に想像して下さいまし。私は殆ど毎夜のやうに泣いて過しました。夜を九段のあの橋の上に立つて、チラ〳〵動く街の灯を見つめ、時に大輪の月を仰ぎ、お母さま、お父さま、小さい弟や妹だち、それからお兄樣。故郷戀しの情に驅られて、私は幾度あの鐵の欄干に涙を落したことでございませう。女と笑つて下さいますな、大東京の眞中に、ひとりぼつちの十七乙女、きらびやかなる百萬の市民は皆路傍の人、故郷戀しと眠れぬ夜を、悲しげに響く兵營のラッパを聞けば、涙するのが無理ではございません。

しかし御兄樣、私は決してこの悲しみを無駄だとは思ひません。離れて初めて知る故郷の懷しさ、母の慕はしさ、「可愛い兒には旅させよ」の訓言は、一面、人の子をして其の愛郷心を養はせる意味もあらうと考へられます。お兄樣、あなたもたゞ今は他郷にありますお身體、私の言ふことはよくお判りのことと存じます。

私も淋しくなり勝つた十一月の初旬、私はいつもの通り、あのお裁縫から住宅へ歸りました。もう夕暮れでございますのに、まだ住宅には燈がつきません、暗い心持ちで裏口へ廻ると、お母さんの涙聲が聞えてきました。私はハッとして、戸袋に身を寄せて立聞ますと、こんどはお父さまの太息が漏れます。お兄樣！ あなたはこれだけでもう充分御理解でございませう。

お父樣の俸給は月に二十五圓、四月からはお情のお手當が五割とか御座いまして、どうやらホッとしたもの丶、八人家族の三十七八圓は什うするといふのでせう。でもお父樣は學校の職員住宅に居られますので幾分は凌げますけれども、お米は六十幾錢、お味噌は八十何錢となりますと、朝夕の御飯も美味く喉を通りません。「兄さんが早く卒業してくれゝば」――それのみが本當に一家の願ひの全體でございました。併し、お兄樣の卒業は來年の三月、とてもそれ迄は家が保てません。お母樣は赤ちやんを抱いて眞坊と菊江ちやんとのお守に手が一ぱい、あとは腕白の精ちやんと國ちやん、どんなに働かうがどんなに險約をしやうが、もう〳〵とても家の經濟は立ち切れなくなつたのでございました。

あゝ私は！ 私だ、私を措いて他に誰が賃銀を得ることが出來やう！ さうだ。

「お父さま、どうぞ私を奉公に……奉公に出して下さい。」

私はある晩御飯を頂きながら左樣申しました。お母樣はお箸を執つたまゝ、目をしばたゝいて、ホロリと一滴を赤ちやんのお頭に下すと、私はそのまゝ其處に泣きぢやくりました。

「莫迦を謂ふのではない。お前は今が修業の大切な時だ。そんなことよりか、お裁縫に精を出しなさい。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

お父様は濕聲で仰言いました。私は何時迄も〳〵泣いてゐますと、精ちやんが大人びた態度で「しげちやん、奉公に行つてお金取るのかい」と申しました。今度はお父様も手で目を掩はれました。

かういふ日が毎日のやうに繰り返されて、私は、どうしても奉公に出やうと決心を致したので御座いました。

この晩、私が家へは入つて燈をつけますると、お母さまは泣き腫した目に涙をためて、私が奉公に出ることをお父さんも御承知をなすつた旨のお話がありました。そして幾度も〳〵鼻汁をすゝつた揚句「しげちやん、堪忍しておくれ、ね……」と袂を顔にあてました。私は疊に手をつくと、涙が止めどなく落ちてきて、何にももう見えなくなつてきました。

それから一週間經つて私は上京することになつたのでございました。風の吹く寒い日でしたが、一同があの丘の上まで送つてくれました。國ちやんや精ちやんは「しげちやんお土産買つてきておくれ。僕は鐵砲と飛行機僕は劍と帽子」などと、銘々に註文などを致しまして、それでも名殘が惜しまれると見えて、私の手や袖に絡みついてゐました。

肩掛を取つてお挨拶をすると、お母様は「しげちやん！」さう謂つたきりでした。お母さまの涙があまりに眞實なので、國ちやんや精ちやんまでが何といふこともなしに泣きました。

お父さまはバスケットを持つて、、、、サツサと先きに出かけましたので、私も風に向つて歩き出しました。あの村端れの曲角で振り返へると、まだお母さん達は立つてゐました。

汽車に乘つてから、お父様は更にお小遣を一圓下さいまして「からだに氣をつけな……」と仰言いました。窓から首を出してお父様をフラットホームに殘すと、いくら齒を嚙みしめても涙が承知しません。泣きながら泣きながら私はあの鐵橋を渡りました。

あゝお兄様！　貧しいことは悲しいものでございますね。併し、悲しいことの半面にはまた嬉しいこころもございます。かうして私はつく〴〵と父母の恩愛を知ることが出來、かうして些しづゝでも父母の手助が出來るかと思ふと、悲しい中にも美しい歡の情の溢れることを禁じ得ません。

お兄様、どうぞ御勉強なさいまして、來年の春は御優等の御卒業をなすつて下さいまし。玆にお小遣の中から貳圓だけお兄様に差上げます。お兄様、お兄様、どうぞお身體を御大切に。私は毎晩寢みます時には、床の中に手を合せて、お母様から順次に皆様を一人々々に心に描いて、お兄様を最後に、また明日の幸福を祈つて眠に入りますのよ。お兄様さよなら。(完)

＊　＊　＊　＊

畠山敬子

弟よそなたも一人吾もひとり
　そひていれまして今宵さむしも
弟よそなたの足がつめたくば
　姉によりそへ肌もてぬくめむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

神尾陸軍大將と小間使

十二月九日の東京日々新聞に次の記事が出てゐましたのは、讀者の御承知と思ふ。

> **神尾大將**
> 小間使と手切れ
> 解合不可能となる
>
> 金澤裁判所にて審理中なる神尾陸軍大將に對する情婦加賀小松町増原はるよりの扶助料請求事件は八日森裁判長より原告はるの辯護人横井辯護士を徑て和解勸告をなせるを以て同氏より此旨通達せるにはるは斷乎として是を拒み遂に和解不可能となれるを以て横井辯護士は神尾大將よりはるに送れる艶書數十通を證據に飽くまで訴訟を繼續する決心なりと(八日金澤電話)

□大將の爲に惜む

神尾大將は青島の戰で名聲をとゞろかせた名將軍であるが、其の裏面にはこういふ事實もあつたことと思はれる。尤も大將のことは、二三ケ月以前くわしく新聞に出てゐたので、耳新らしいことではないが、裁判の公開はこれが始めてなので、又この節ひとしきり噂の種になつてゐる。昔は英雄色を好むなどといつて大目にみて居つたのであるが、大正の世の中に處女の操を破るなどは、實に許しがたき罪惡で、神尾大將は鬼をもひしぐ名將軍ではあらうが、處女會の指導者にはなれない。否處女の敵であるかも知れない。獨逸の敵は破つたが、日本の一人の娘から攻められて、今はもう降參とはあゝなさけない。

□夫の爲に身を許す

然し記者は今神尾大將を筆誅するが目的ではない。何故ならば大將ばかりでなく、今の時めく大臣や華族

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

や富豪の大多數はきつと、二人や三人の處女の操を破つてゐるといふことであるから、これがほんとうならば實になさけない。然し今一々こんな標本をさらけ出しても際限がないから敢てしない。

只此處で多くの處女にどうしても一言しなければならぬのは、斯樣な主人や社長から誘はれた時にどうすればよいかといふことである。案外男の心は卑しいものである。殊に自分の使つてゐるものに對しては、大膽で我慢なもので、使はれてゐるといふ弱點につけ込んで、誘惑をするの例は甚だ多いのである。甚だしいのになると、自分の使つてゐる社員や事務員の妻を誘惑するものがある「あなたの御心次第で、あなたの御主人は會社をやめずにすませませう」といふ。全く一種の恐脅取財である。ああ弱いのは使はれの身である。氣の弱い女は夫の爲につい身を許すことになる。

□心の深い罪

然し皆樣よく考へて下さい。妻となつてゐれば尚更のこと、娘の誇を、こういふ道ならぬ主人の爲に穢してよいものか。

仍で私は、萬一皆さんがこういふ場合に出つ會したときには、どうすればよいかと申しませう。時と場合に依つていろ〳〵ちがひませうが、

一、思ひきつて意見をすること。

酒に醉つてゐても少しは正氣はありませう。居直つて、あらたまつて

『旦那さま、其は何んといふ亂暴な仰せ、ようく御身分を考へて下さい、外のこととは違ひます、第一奥樣のお耳に入つてもよろしくはございますまい。』と忠告をするのです。昔の三猿を守つてこの場合默つて「話さざる」であるから生涯浮ばれぬのです。神尾大將の小間使はつまり心が弱かつたのです。

二、には若し奥さんの部屋が近ければ、便所へでもゆくまねして、奥さんに申し上げるのです。然しこうなると、旦那との折合は惡るくなるし、自分もその家に居られぬ覺悟でなくてはなりません。又そんな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人非人の家にゐる必要はない、サッサッと出ておしまひなさい。女の働き手がないので困つてゐます。

三、には、新聞社に知らせることですが、是も自分の名譽でもありません。尤もこういふ出來事は、急に起る場合が多いので、そんな暇はないでせう、殊に自分の家でなく、待合とかその他に伴れ込んで誘惑する場合が多いものですから、是はよほど敏捷な女でなくては出來ないでせう。

然しもと〲自分の意思にないことを強ひられるのですから、眞劍になつたらば、眞劍の考が起る筈です。女の方にもたしかに罪があります。心の弱いことです。貞操を重んじないことです。遠慮もしどころです。

□簪で眼を刺す

次に腕力を以て挑まれたときには、正當防禦といつて法律で定められてゐる通り、此方で自分の身を守る爲に相當の手段を取らねばなりません。庖丁を以て爭ふもよければ、尺度を以て擲つのも宜しい。素手であつたならば、耳を引くとか、指を嚙むとか、急所を突くとかして下さい。自分の生命に危害を加へられるやうなときには、この位なことは當然であります。

或人は女も強くなつて腕力を以て爭へと申しまするが、其は今の所困難と思ひます。若し二人三人で寄つて來たなればどうしますか。いかに柔道を心得てゐても、とても叶ひますまい。だから腕力より頓智が大事です。女が頭に簪を挿してありますが、あれは男の目をつくに十分です。いざといふ時には應用しなさい。闇の夜なんぞに手ごめに合つたときなどには妙です。

然しこうしてまでも、遂に操を汚されたといふ處女に對しては、何んともたとへようがなくお氣の毒で、同性の女は、共通の敵として、その男子を社會より葬り去るべきですが、世の中は不自然な自然の運命が廻つて來るもので、こうして身を汚されて身持になる女が少くないのです。中には全く相手の顏も知らぬといふ場合もあると申します。何んといふ呪はしいことでせう。いたましいことでせう。而も其が淸い美くしい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

お嫁入りも近いといふ處女であつたといふ例も多いのです。皆樣自分の身に引きくらべて、よく考へて下さい。そんな鬼の如き男は、八ッ裂にし、火焙りにしても足りません。

□鬼の子がお腹に宿る

然しどんな刑にしても、お腹の子供は、どうしようもない、思ひ余つて身投げをした哀れな女は少くありませぬ。けれどよく考へてみまするど、私どもは、その場合に、その女は、決して汚れてはゐないと思ひます。處女であると思ひます、社會はその女に同情し尊敬すると共に、男は同じ仲間の中にこういふ男がゐたのは申し譯がないといつて謝罪しなければならぬと思ひます。尚是は、私たちの考へですが、こうして心にもない姙娠した女は、或る手續を履んで墮胎をしても差支へないようにしたいと思ひます。是が正しいことと思ひます。全體今の法律は女に不利益です。

然しこんな場合はよく〱のこと、只皆樣に參考の爲に申し上げたに過ぎない。肝心なことは、自分の精神をしつかりとし、道ならぬ誘惑に陷らぬこと、旦那や相手を忠告すると、手ごめに合はうといふ場合には正當防禦をすることをよく心にかけて下さい。新聞にあるように、節操を敎へる小學校の先生が女生徒を弄ぶ世の中です。女はよつぽどしつかりしなければなりませぬ。密のような甘い言葉をかける人がきつと深切とは限りません、多情の人はよく無情なことをします。女が大手をふつて闇夜を自由に散歩し得られる時代は前途が遠くあります。然し私どもは、さういふ世の中にしたいと努力してゐます。

國府理事歐米視察

本會理事、宮内省内閣内務省囑託國府種德氏は今回歐米國情視察を命せられ十二月二十六日横濱を出帆せられたり。全國處女會員と共に同理事の無事使命を果たして歸朝せらるゝを待つ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

日本で始めての

「工場の内に處女會起る」

押上程ヶ谷紡績工場に於て

「工女は卽ち孝女なり」日本の工女の大多數は地方の娘さんであるといふところから、處女會中央部は工場と連絡して巡廻講演會を開き工女の修養向上を促して居りますが、こんど富士瓦斯の押上程ヶ谷工場の工女さんたちが、新たに工場處女會をこしらへ、その發會式を一月上旬に行ふことになつたといふことは、何んといふ心强い、目出度いことでせう。このことは、日本に始めてのことで、日本の工場婦人界の歷史を飾ることでございます。會則をみますと、

程ヶ谷工場處女會目的

『本會は當工場の友達が互に援け合ひて親睦を敦くし、日常生活に必要なる事柄を研究し、其の智識と技能とを向上すると共に、婦藝を養ひ、風儀を正くし、苟くも誘惑に陷らず女らしく溫和なる中に堅實なる思想を以て業務を勵み立派なる婦人たらんとする共同自治の集りであります。』

何んといふ立派な、さうしてわかり易い目的でせう。ひとつ工場につとめてゐれば、姉妹です、友達です、その友達が互に援け合つて、修養しようといふ申し合せは、見上げたものです。

事業

『本會は其事業として敎育衞生の講演會雜誌の講讀料理法、作法、手藝の講習、娛樂、遠足、運動會を開催するの外菜園、花園、養鷄場を設置し又相互身

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の上相談を行ひます。』

地方處女會の事業と同じこと、田舍より出た工女さんが故里を忘れぬ爲に、又町の娘は、品性を高尙にする爲に、花園をこしらへ、野菜園をこしらへるといふ何んといふなつかしいことでせう。又互に身の上相談をするといふ、是も姉妹たちとして、是非しなければならぬこと、中央部の喜びは一通りでありません。尙役員や會員の入退會は會則にありますが略します。會則の御入用な方は、工場へ御申し込みになれば送つて下さるでせう。工場處女會は毎月一回又は一月置に通常會を開き、春秋二回に大回を行ことになつてゐます。

發會式の模樣は、二月號にくわしくのせます

工場の貴婦人

地方には處女會が出來て娘さんは一日々々と立派になり、工場の中にも、處女會が出來る。今に町や市の處女會が譯山出來ますると、もう日本の娘さんがすべて進歩して來ます。青年會と處女會、この二つは日本を支へる二柱です。

農場より工場へ、工場より農場へ！　農村よりお嫁に、工場よりお嫁に！　こうならねばほんとうでありません。工場にゐたさうだから、さぞよく働く娘でせう、よい工場だから身體も丈夫でせう、お嫁に貰ひたいといふようにならねばなりません。「工女は即ち孝女なり」『孝女は即ち貴婦人なり』してみると、工女は即ち貴婦人なりとなります。あゝたふとい工場の貴婦人あゝなつかしい農場漁村の貴婦人!!

□販賣部より

代金は凡て前金の筈でありますから左樣御承知下さいませ又代金が切れても御拂込のないときには集金郵便に托しますから是非御承知下さいませ尤も集金郵便の時は別に八錢の手數料がいります

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

懸賞處女文藝募集

第一種

作文（田舍の友へ 町の友へ 工場の友へ）（題隨意一人三首）
和歌（題隨意一人三首）
俳句（題隨意一人三句）
考へ物（下の題をみよ）
習字（半紙一枚六字）

第二種

處女會の寫眞
田園生活の感想
有利なる副業內職
內地篤志婦人の事績
田舍より見たる都會

第三種

處女俱樂部（はがき一人一題）
衞生問答（一人一問）
處世問答（一人一問）

處女文藝（百二十五篇中）

年末の感

廣島河內村　みささ

藁屋根に、霜の白うおけるを、珍らしと見たるに、今は早や初雪さへ降りて日每〳〵にめぐる、こよみの數と共に、今年も早や暮れんとして居る。

あゝ待たぬ月日の立つは早き事よ、慌しく逝きし、過去一年をかえり見れば、嬉しき事あり、悲しき事あり、種々なる思出あり、平和克復てふ、深き印象あり、我身も田園處女として、淸き美しき意義ある生活をし、尙祖父母父母を失わず、己も病褥に臥せざりし事は、こよなき幸にこそ。あまたの感想をつゝめる年を送りて、今正に、新しき年を迎えんとしつゝあり、新しき年は新しき心をもつて、むかえざるべからず、あゝ待たる、春よ希望と光明に、若き少女の胸は輝く、やがて來ん年は、今迄より一そう、高き人格と淸き思想、大なる修養に、勉めざるべからず。願くは誌友諸姉よ、幸ある新春をむかへられん事を。

霜の朝

岐阜　竹腰よさ枝

まあひどい霜だこと――私は思わず一人語をいひ乍ら裏の谷川へ顏を洗に行きました本當にひどい霜ですもの橋の上なんかまるで雪が降つた樣に見えます。

月は高くすみ渡つて淸いこの下界を照らして居ります。折柄天神樣へお詣りする子供でせう可愛らしそうに、『もう幾つ寢るとお正月』と聲をそろへて歌つて行くのが聞えます神聖な空氣を吸つて淸い月影をふみ乍ら神社へ參詣する子等の心もいかばかり美しいものでありませうとうつとり見とれて居りますと後の方でいゝ月だネ寒月照梅花と云ふ句が思われるなんて姉樣もやつぱり見とれて居ます。

考へ物新題

口柱に頭をうちつけて（縣の名一ツ）

一月十五日〆切はがき一人一答のこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

編輯だより

○この雜誌が皆樣のお手に入る頃はお正月ですから、少しくりあげて、皆樣お目出度う、お雜煮をたくさん召し上つてにこ〳〵してゐらつしやる皆樣のお顏がみえます。大正九年はもつと強く優しくまじめに働きませう。

○ほかの雜誌は口繪を飾つたりページをふやしたりしますが「處女の友」はいつもの通りです。美しくもなければあつくもありません。只どこまでもまじめのつもりです。澤庵のようにかみしめると味が出ます。

○「處女の友」はだん〳〵お友達がふえて來ました。もつと〳〵大勢の姉妹を誘つて下さい。帝國青年に廣告が出てゐますので、それをみた娘さんが『お兄さんの雜誌をみて處女の友を知りました、「一册送つて下さい」』と申込んで來られます。何んとはなけれどなつかしい。

○處女會が工女さんをお世話するのは、工場の爲にするのではなくみなさんの爲にお世話するのです家の都合で、どうしても、お金とりをしたい、よい所がないといふ娘さんに、よい工場をお世話するのです。工場にも處女會が出來ました。今にもつと〳〵よくなります。工場ももつと〳〵仲よくなります。夜業もなくなります。中央部ではほかの職業もお世話をいたします。

○こんど處女の友をよんで居られる人を會員として誌上に掲げますから、どうぞ住所と姓名と年とを知せて下さい。農業か商業か其も知りたい。さうして誌上で交際することにしませう。

○讀者くらぶはたくさんよこして下さい。衛生問答も身の上相談もよこして下さい。十一月の考へ物の答は、カナキン(金金)です。一人も當つた人がありません。こんどの考へ物はたくさんよこし下さい。

處女の友改正定價表

毎月一回一日發行

定價

	定價	郵稅	合計
一部	拾五錢	五厘	拾五錢五厘
半年分	八拾五錢	不要	八拾五錢
一年分	壹圓六拾五錢	不要	壹圓六拾五錢

廣告料

	特別面	普通面
一頁	貳拾五圓	拾五圓
半頁	―	九圓

注意

◎御註文は總て前金の事、前金盡きたる節は封紙に「前金切」と捺印して通知に代ふ◎御送金は振替貯金が最も便利なり◎郵券代用は一割增のこと◎外國行は郵稅實費を申受く

大正八年十二月二十八日印刷納本
大正九年一月一日發行

東京市本鄉區元町二丁目十六番地
發行人 印刷人 田所楠猪

東京市麴町區紀尾井町三番地
編輯人 天野藤男
處女會中央部

東京市京橋區弓町十二、三番地
印刷所 千代田印刷株式會社

東京市本鄉區元町二ノ六六
處女の友發行所
電話小石川三一七四番
振替東京六一一九〇番

大賣捌 東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、至誠堂、上田屋、其他

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

謹賀新年

大正九年一月

處女會中央部理事（イロハ順）

穂積松子　嘉悦孝子
吉岡彌生　棚橋絢子
田所楠猪　山脇房子
福島四郎　國府種徳
跡見花蹊　天野藤男
三輪田眞佐子　下田歌子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

初化粧（はつげしやう）には
色を薄紅白くし
晴々した色艶を現はす
ホーカー液

歌留多會やお年始
お祝ひの席に御出での節には
お忘れなく一滴お塗けなさい
肌アレをも奇妙に防ぎます

定價
小廿五錢
中五十錢
大一圓

東京神田和泉橋
本舖堀越嘉太郎商店
電話神田一四三・一四四・一四五
振替東京一五六

大正七年十二月二十五日第三種郵便物認可
大正九年十二月二十三日印刷納本
大正九年一月一日發行(毎月一回一日發行)

一部定價　金十五錢

東京市麹町區紀尾井町三番地　處女會中央部・東京市本鄉區元町二ノ六六　處女之友發行

（カテイ石鹸・商標となれる名畫（ルブラン筆母と娘））

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN